

平成24年度外部評価委員会議事次第

日 時 11月27日(火) 14時30分～16時30分

場 所 大会議室

次 第

1. 開会挨拶

2. 協 議

(1) 本校の教育の現状と課題(資料1)

説 明

質疑応答・外部評価委員会からのご意見等

(2) JABEE 中間審査について(資料2)

説 明

質疑応答・外部評価委員会からのご意見等

(3) 企業等, 卒業生へのアンケート結果の分析(資料3)

説 明

質疑応答・外部評価委員会からのご意見等

(4) その他

3. 総 評

4. 閉会挨拶

本校の教育の現状と課題



平成24年11月27日
舞鶴工業高等専門学校

本校の概要

- 昭和40年4月1日 機械工学科2学級、電気工学科設置
- 昭和45年4月1日 土木工学科増設
- 平成2年4月1日 機械工学科の1学科を電子制御工学科とする
- 平成6年4月1日 土木工学科を建設システム工学科に改組
- 平成12年4月1日 専攻科設置
- 平成16年4月1日 独立行政法人化
電気工学科を電気情報工学科に名称変更
- 平成17年11月 日本工学者教育機構(JABEE)受審
- 平成18年11月 高等専門学校機関別認証評価受審
- 平成18年4月1日 建設システム工学科を都市環境系コースと建築系コースのコース制とする

現在の各学科内容

機械工学科

材料力学、熱工学、工作法、生体力学、流体力学、計測工学、電子物理
(構成)学生40名/学年)

電気情報工学科

電気電子工学、情報通信工学、エレクトロニクス、情報通信ネットワーク
(構成)学生40名/学年)

電子制御工学科

電気電子工学、計測・制御工学、情報工学
(構成)学生40名/学年)

建設システム工学科

都市環境コース 建設、土木工学、環境工学
建築コース 建築、都市工学
(構成)学生40名/学年)

現在の専攻科の内容

電気情報工学科

電子制御工学科

電気・制御システム専攻

ソフトウェア、通信、電子回路、制御、メカトロニクスを学ぶ

機械学科

建設システム学科

建設・生産システム専攻

建設、生産技術の高度化のためのコンバーナント技術、システム技術の習得

第2期中期計画期間における学校の将来構想(又はその検討状況)

1. 社会状況の変化

高専設置以来50年が経過し社会情勢は大きく変化し、インターネット、携帯電話などICT技術の進展による新しい産業構造となった。少子化も大きな社会問題となっている。設置時には考えられなかった進学者が現在は約半数となっている。

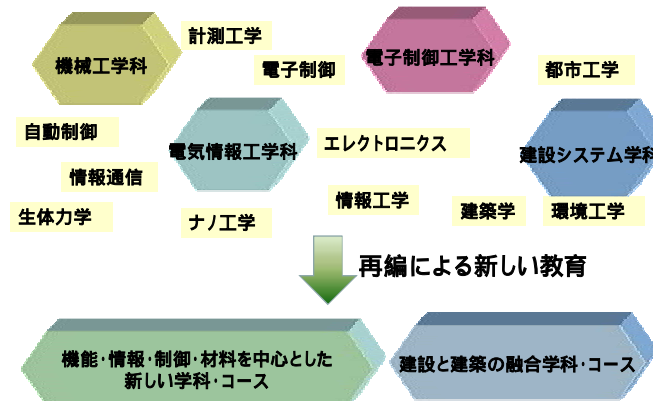
2. 社会の高専に対する期待

本校に対する期待は大きく、就職求人率も本科で平均20倍と成っている。

3. 本校における高度化再編計画

これらの状況を把握して、本校の学科再編による新しい教育を考えていきたい。

現学科の再編による新しい教育



将来計画の一例

1年 2年	混合学級			
3	機械(40名)	メカトロニクス(40名)	電気情報(40名)	土木建築(40名)
	学科の連携強化			
4、 5年	探求コース 20名 ものづくりコース 20名	探求コース 20名 ものづくりコース 20名	探求コース 20名 ものづくりコース 20名	探求コース 20名 ものづくりコース 20名
専攻科	機械工学専攻 4名	機械制御専攻 4名	電気情報専攻 4名	土木建築専攻 4名

今後のスケジュール

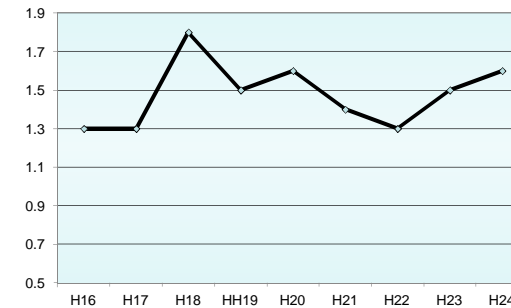
H24~H25	H26~H27	H28~
学科・コースに関する検討	学科・コース(内容と名称)の決定	実施
電気情報工学科と電子情報工学科の連携	社会状況、入試、求人状況などから再度の検討	
・中学関係者などの意見聞き取りなど調査の実施	カリキュラムの検討	

2. 平成24年度に取り組んでいる主な事項

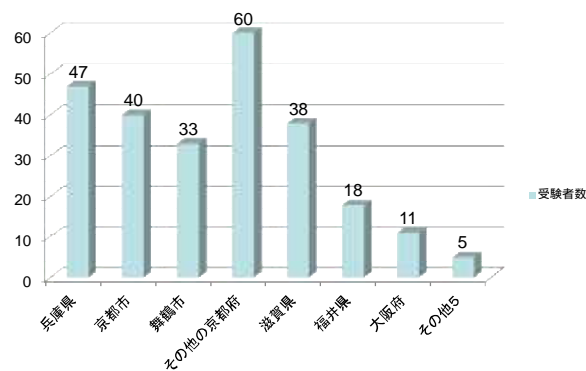
(1) 質の高い入学者の確保

オープンキャンパスの充実
 京都市、三田市、滋賀県、福井県における入試説明会、訪問、京都市・三田市でのプレオープンカレッジ開催
 中学校への入試活動の徹底、中学校との密接な関係の構築
 数多くの中学校訪問、
 ホームページ・携帯電話を利用したPR
 入学生の多くがホームページを利用して情報収集

最近の入試倍率



地域別受験者数



広範囲な校区、あるいは大都市圏における志願者拡大の試み

大都市圏では、中学生人口は多い しかし、競合する高校数や大学数も非常に多い、中学校周りも困難である、
 そのため新しい入試広報と情報発信



新しい入試広報の試み

- ・ホームページでの入試広報を充実
- ・パソコン・携帯電話用の学校紹介アプリを開発するコンテストの実施
- ・オープンキャンパスの複数回開催
- ・女子志願者の増加を図る
- ・複数の入試会場を設置
- ・公開講座、出前授業を数多く行う
- ・ダイレクトメールなどにより中学生に直接情報発信
- ・志願者増加に関する研究フォーラムを開催



高専のブランド化

高専は優れた高等教育機関であり、産業界などでは評価が高いが、一般的には学校内容があまり良く知られていない。そこで、左記の入試広報などにより高専の情報を社会に発信し、「高専」をブランドとして社会的にイメージを向上させることを試みる。

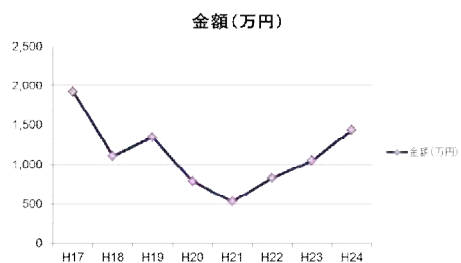
その他の情報発信
出前授業、オープンカレッジの実施



志願者増に向けたポスター作成



(2) 外部資金のさらなる獲得



最近の科学研究補助金の採択金額の推移

今後の外部資金活用計画

- 1 科学研究補助金の更なる獲得
- 2 大学間連携共同教育事業などへの申請
- 3 共同研究、受託研究、受託試験の推進
- 4 地域企業との連携
- 5 国立高専機構競争的資金の獲得
- 6 舞鶴市との共同事業の推進

(3) 教育の充実

初年度教育の実施

1年生における初年度教育として、「工学基礎2単位」の導入

高専でのロボット製作やソフト作りなど、高専独特のものづくり教育にあこがれて入学したものの、1年生の時は基礎教育が多く、学習目的を失う学生も多い。そこで、本校では1年生にもものづくり教育の基礎となる、実験・実習による体験型学習である「工学基礎」の授業を1年生で行っている。



「工学基礎」授業

「工学基礎」授業(通年2単位)は、1学年で各学生が所属する専門学科の内容を良く理解するため、学外講師の講演などによるキャリア教育をおこなっている。



赤煉瓦倉庫群での興鶴市レクチャー



赤煉瓦倉庫群での興鶴市レクチャー

国際性の育成

本校では、教育の特徴として、国際性のある技術者育成を行っている。このため、海外の多くの大学と連携して、毎年、4年生全員と専攻科生をこれらの海外連携大学に派遣し、現地学生との交流やインターンシップを実施している。また、専攻科国際インターンシップ・国立タイキングモンクット工科大学との相互研修などを実施している。これらの国際性を持たせる教育を今後も続けて行く。



国際提携校

- 平成17年 タイ キングモンクット工科大学ラックラパーン校と国際交流協定締結
- 平成18年 韓国 高麗大学と国際交流協定締結
- 平成18年 中国 大連職業技術学院と交流協定締結
- 平成18年 台湾 国立高尾第一科技大学と交流協定
- 平成20年 ベトナム ハノイ建設大学と学術交流協定
- 平成23年 マレーシア工科大学とLOI締結予定
- 平成23年 中国 成都電子機械高専、成都航空職業技術学院と交流協定締結予定



地域との連携した教育




舞鶴市の協力による、学生による店舗の改造、拠点づくり

本校卒業生企業との連携

舞鶴高専出身の起業家も多く、(株)エイチアイの川端一生社長や、レンタルサーバー業で有名な(株)さくらインターネットの田中社長、笹田 亮元社長などが活躍している。これらの卒業生を「工学基礎」授業に講師として招聘し、先端技術を学生に紹介。

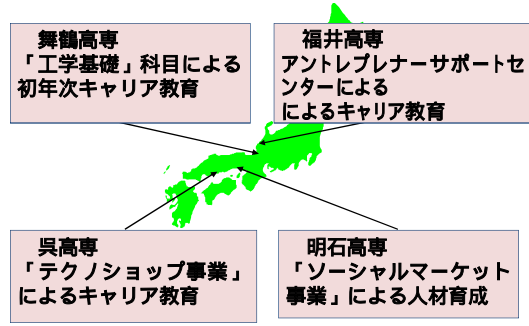


平成22、23年度特別教育研究経費事業の継続

高専連携による、アントレプレナーシップ醸成・キャリア教育の進展

実施校
舞鶴工業高等専門学校、福井工業高等専門学校、
呉工業高等専門学校、明石工業高等専門学校

高専連携によるアントレプレナーシップ醸成・キャリア教育の進展



舞鶴高専
「工学基礎」科目による初年次キャリア教育

福井高専
アントレプレナーサポートセンターによるキャリア教育

呉高専
「テクノショップ事業」によるキャリア教育

明石高専
「ソーシャルマーケット事業」による人材育成

(4) 学生への支援

高専は「知の教育」とともに「人の教育」が教育機関として重要と考えられる。

学生に対してきめ細やかな対応をするため**担任制度**を継続するとともに、**学生相談室を充実**して、学生のメンタルヘルスマネジメントを十分に行う。今回の不幸な事件のケアなどを行う。

学寮運営に対する寮生・教職員の協力体制の充実を図り、メンタルヘルスを含めた寮生の学習・生活の支援にあたる。

最近の**大不況**に対応して、企業紹介などを積極的に行うほか、学生の適性や希望に応じた**進路選択を支援**するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。

学生の**ボランティア活動**などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの支援を行い、学生の人間的成長を図る。

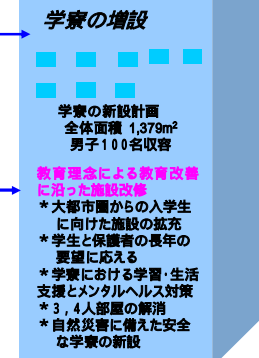
(6) 外部評価の受審

- (1) 毎年、有識者による外部評価の実施
- (2) 平成23年度に日本技術者教育機構(JABEE)の中間審査受審
- (3) 平成24年度の次期高等専門学校機関別認証評価受審に向けての準備を行う
- (4) 自主的な外部評価として、GPなど競争的事業に申請を行う

(5) 学寮施設の充実

大都市圏、広い校区に対応した学寮の増設
本校は京都市、兵庫県、京都府全般、滋賀県などからの入学生がほとんどとなっている。舞鶴市からの志願者は全体の13%(平成24年度)である。
このため、学寮が恒常的に不足し、3人部屋、4人部屋で対処している。

学寮の寮室の不足と老朽化
本校学寮は、毎年約100名の学生が入寮できない。本校の学生は広い地域から集まっており、早急に学寮を増設したい。
学生が安心して、安全に学習できる教育環境としての宿舎の早急な実現



(5) 卒業者の就職・進学状況

平成23年度

	卒業者 (修了者)	就職者/就 職率	進学者/進 学率
本科	156名	91名 /58.3%	65名 /41.7%
専攻科	20名	12名 /60.0%	8名 /40.4%
計	176名	103名 /58.5%	73名 /41.5%

本科就職状況(平成23年度)

	卒業者数	就職希望者	就職決定者	求人会社数	求人数	求人倍率
機械工学科	44名	32名	32名	427社	437名	13.7倍
電気情報工学科	37名	21名	21名	441社	457名	21.8倍
電子制御工学科	31名	14名	14名	413社	416名	29.7倍
建設システム工学科	44名	24名	24名	198社	207名	16.8倍
合計	156名	91名	91名	1683社	1720名	18.9倍

専攻科の就職状況(平成23年度)

	修了者数	就職希望者	就職決定者	求人会社数	求人数	求人倍率
電気・制御システム工学専攻	9名	3名	3名	342社	345名	115.0倍
建設・生産システム工学専攻	11名	9名	9名	447社	471名	55.4倍
合計	20名	12名	12名	835社	844名	70.3倍

本科の主な就職先(平成23年度3月卒業生)

川崎重工業(株)、キヤノン(株)、(株)京都製作所、(株)堀場製作所、オムロン(株)(株)きんでん、国土交通省・近畿運輸局、日東精工(株)、日本たばこ産業(株)、関電プラント(株)、(株)森精機製作所、武田薬品工業(株)、国土交通省・近畿地方整備局、大鉄工業(株)、(株)竹中工務店、東海旅客鉄道(株)、関西電力(株)、中部電力(株)、(株)小松製作所、大阪ガス(株)(株)資生堂、三井造船(株)、三菱重工業(株)、日新電機(株)、(株)堀場製作所、パナソニック電工(株)、日本貨物鉄道(株)関西支社、西日本旅客鉄道(株)、北海道旅客鉄道(株)、ユニバーサル造船(株)、舞鶴市

本科の主な進学先(平成23年度3月卒業生)

舞鶴高専専攻科、千葉大学、電気通信大学、静岡大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、大阪大学、京都工芸繊維大学、広島大学、福井大学、金沢大学、和歌山大学、徳島大学、愛媛大学、九州工業大学、立命館大学

専攻科の主な進学先(最近5カ年)

東京工業大学大学院、長岡技術科学大学大学院、金沢大学大学院、福井大学大学院、岐阜大学大学院、豊橋技術科学大学大学院、京都工芸繊維大学大学院(9名)大阪大学大学院、奈良先端大学院大学、神戸大学大学院、九州工業大学大学院、早稲田大学大学院、立命館大学大学院

J A B E E 中間審査報告

平成24年11月27日

舞鶴工業高等専門学校
教育プログラム(PIE)委員長
金森 満

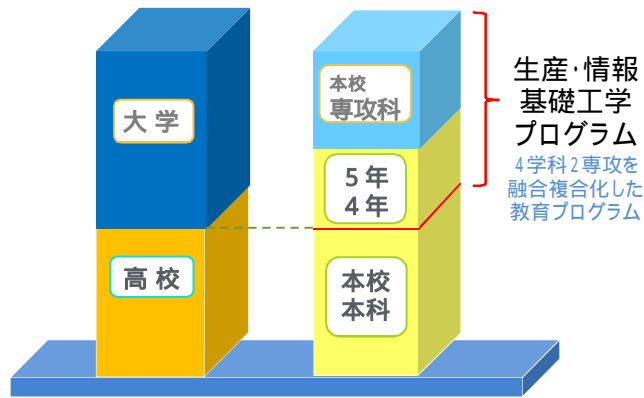
1

J A B E E 認定について

- JABEE認定とは、国際化のため「ワシントン協定の認定大学卒業生と同等の学業レベル」を保証するための制度で、大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定 (Professional Accreditation) 制度である。
- J A B E E 認定により、技術士の一次試験が免除される。
- J A B E E とは日本技術者教育認定機構 (JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education) の略称
- ワシントン協定 (Washington Accord) は、技術者教育の実質的同等性を相互承認するための国際協定

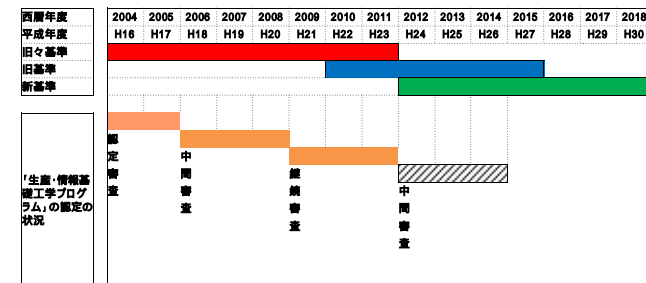
2

生産・情報基礎工学プログラム



3

これまでの認定の状況



4

評価基準と前回の審査結果

基準6.1(1)

学習・教育目標に関する評価結果等に基づき、基準1 - 5に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。

- 審査結果：[C]

5

評価基準と前回の審査結果

基準6.1(2)

教育点検システムは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、システム自体の機能も点検できるように構成されていること。

審査結果：W

6

評価基準と前回の審査結果

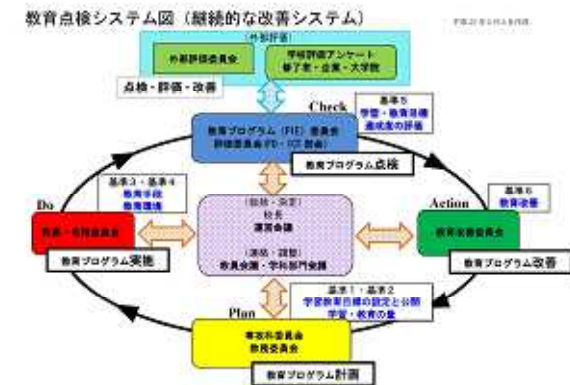
基準6.2(1)

教育点検の結果に基づき、基準1 - 6に則してプログラムを継続的に改善するシステムがあり、それに関する活動が実施されていること。

審査結果：W

7

改善後の自己点検システム



8

一次審査結果 (H24年11月7日)

基準6.1(1)

審査結果: [C] → A

根拠・指摘事項: 教育プログラム(PIE)からの教育点検の結果報告を受けて, 教育改善委員会がシステムの改善を勧告または要請する仕組みを構築している。また, プログラムに係わる教員にWEBサイトを通じて開示されており, 基準を満たしている。

9

一次審査結果 (H24年11月7日)

基準6.1(2)

審査結果: W → A

根拠・指摘事項: 外部評価委員会の開催, 授業評価アンケートの拡充, シラバスの記述内容の整備, 修了者・企業を対象とした学校評価アンケートなどが実際に実施されている。また, 教育改善委員会においてこれまでに構築した仕組みの適切性が点検できるように構成されており, 基準に適合している。

10

一次審査結果 (H24年11月7日)

基準6.2(1)

審査結果: W → C

根拠・指摘事項: 新たに教育改善委員会が設置され, 教育活動を継続的に改善する活動が行われているが, 確実な実施が望まれる。例えば, プログラムの学習・教育目標を達成するために重要な卒業研究や特別研究を評価する際の科目の到達目標との関連や学習・教育目標との関連づけに改善が望まれる。

11

今後の課題

中間審査結果への対応

- 卒業研究, 特別研究(専攻科研究)の評価基準と学習・教育目標との対応を整備
- 卒業研究, 特別研究(専攻科研究)の評価基準と到達目標との対応を整備

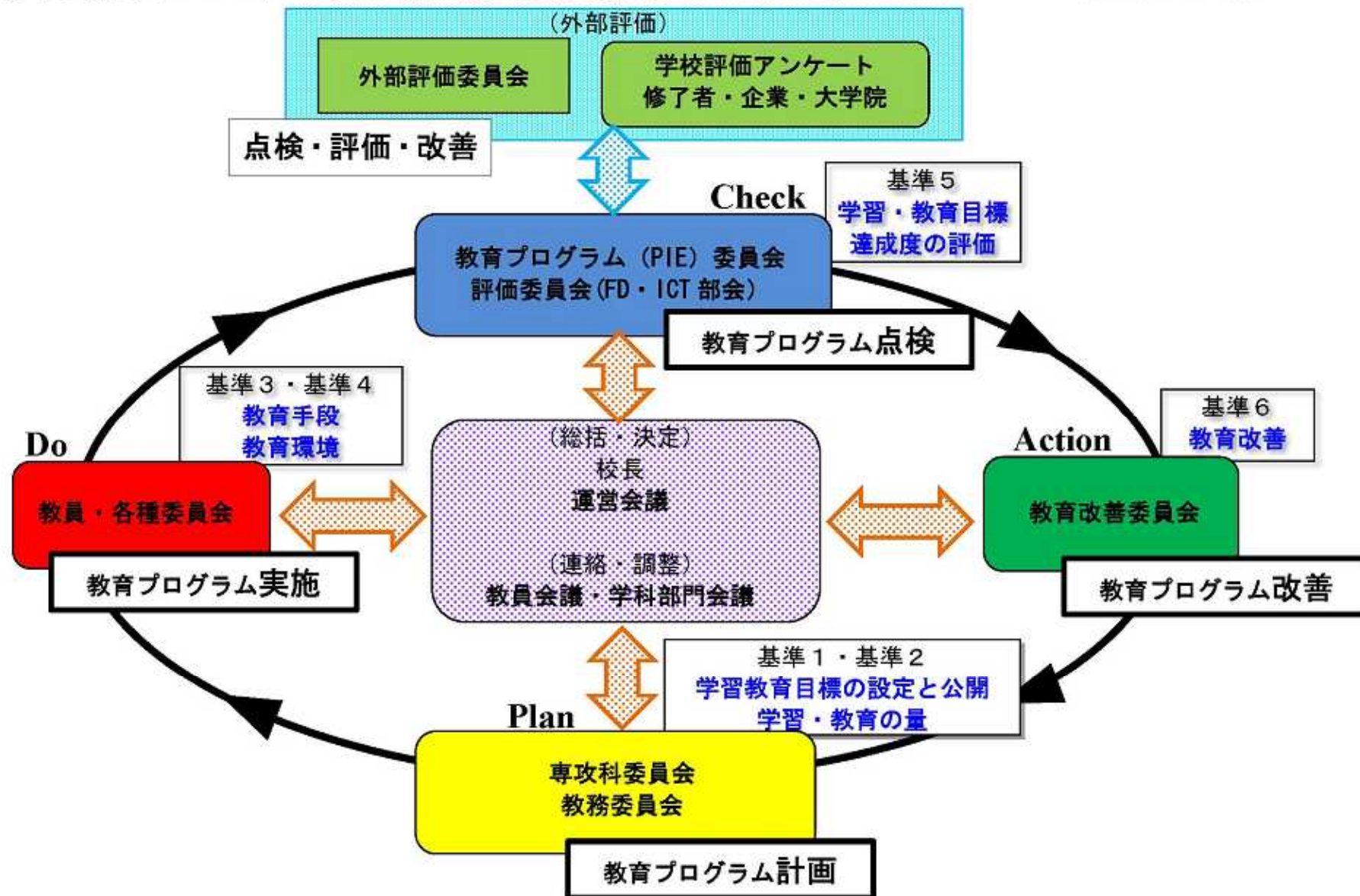
今後の課題

- ・「チームで仕事をするための能力」の育成
- ・育成すべき自立した技術者像の制定

12

教育点検システム図（継続的な改善システム）

平成 23 年 2 月 8 日作成



平成 24 年度 卒業生・修了生および企業
によるアンケート結果に基づく分析

アンケート対象： (1)昭和 62, 63 年度, 平成 10, 16, 17 年度本科卒業生
(2)平成 16, 17 年度専攻科修了生
(3)平成 19～23 年度の本科卒業生および専攻科修了生
の就職先企業(人事担当者)

アンケート期間： 平成 24 年 5 月 28 日～7 月 10 日
(郵便によるアンケート依頼および web 回答)

回答数(率) : 卒業生・修了生 83 / 686 人 (12%), 企業 52 / 223 社 (23%)
参考 : 平成 20 年度 卒業生・修了生 167 / 646 人 (26%), 企業 89 / 230 社 (39%)

卒業生・修了生および企業より寄せられた回答((個人)基礎データを除く)を, 5 段階の評価値に置き換え整理した結果を表 1 に示す。また同様にそれらをグラフ化した結果を図 1 に示す。

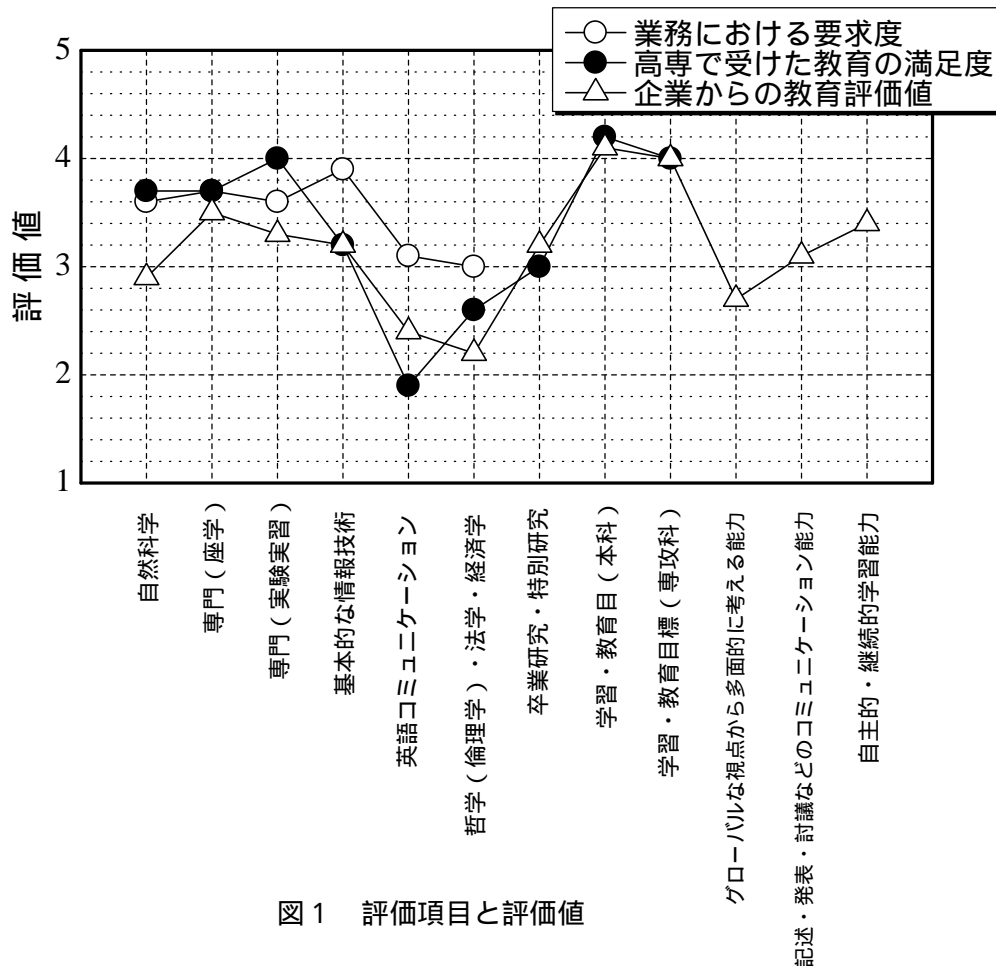
「1. 自然科学」, 「2. 専門知識(座学系)」および「3. 専門知識(実験・実習系)」においては, 業務における要求度, 高専での教育の満足度ともに比較的高い評価値を示している。一方「4. 基本的な情報技術」は, 業務における要求度は比較的高いが, 高専での教育の満足度はやや低い結果となっている。回答内容は出身学科・専攻または企業の業種・職種により差違があると考えられるが, 時代の流れを考慮した改善が必要である。「5. 英語によるコミュニケーション」は業務における要求度に対して, 高専で受けた教育の満足度は全評価項目の中で最も低い結果となっており, 企業からの教育評価値も低い。この傾向は平成 20 年度のアンケート結果とほぼ同じであり, 更なる改善が必要であることを示唆している。また「5. 英語によるコミュニケーション」で見られた傾向は, 「6. 哲学(倫理学)・法学・経済学など」においてもほぼ同様な結果を示しており改善の必要がある。「7. 卒業研究・特別研究」では, 卒業生・修了生の満足度および企業からの教育評価値は, あまり高くない値を示す結果となっている。さらに今回初めてアンケートを行った「8. 学習・教育目標(本科)」, 「9. 学習・教育目標(専攻科)」は, 卒業生・修了生および企業より高い評価値が得られており, 本校の学習・教育目標の妥当性が示されたものと考えられる。

なお, 今回のアンケート回収率は, 前回(平成 20 年度 10 月実施)より大幅に低下している。特に卒業生・修了生の回収率が半減している。Web による回答方式を見直すとともに, 回収率を高める具体的方策が今後必要である。

以上

表1 評価項目と評価値

評価項目	卒業・修了生の業務における要求度	卒業・修了生が本校で受けた教育の満足度	企業からの本校の教育に対する評価値
1. 自然科学（数学・物理・化学など）	3.6	3.7	2.9
2. 専門知識（座学系）	3.7	3.7	3.5
3. 専門知識（実験・実習系）	3.6	4.0	3.3
4. 基本的な情報技術	3.9	3.2	3.2
5. 英語によるコミュニケーション	3.1	1.9	2.4
6. 哲学（倫理学）・法学・経済学など	3.0	2.6	2.2
7. 卒業研究・特別研究	-	3.0	3.2
8. 学習・教育目標（本科）	-	4.2	4.1
9. 学習・教育目標（専攻科）	-	4.0	4.0
10. グローバルな視点から多面的に考える能力	-	-	2.7
11. 記述・発表・討議などのコミュニケーション能力	-	-	3.1
12. 自主的・継続的学習能力	-	-	3.4



平成 2 4 年 7 月 3 1 日

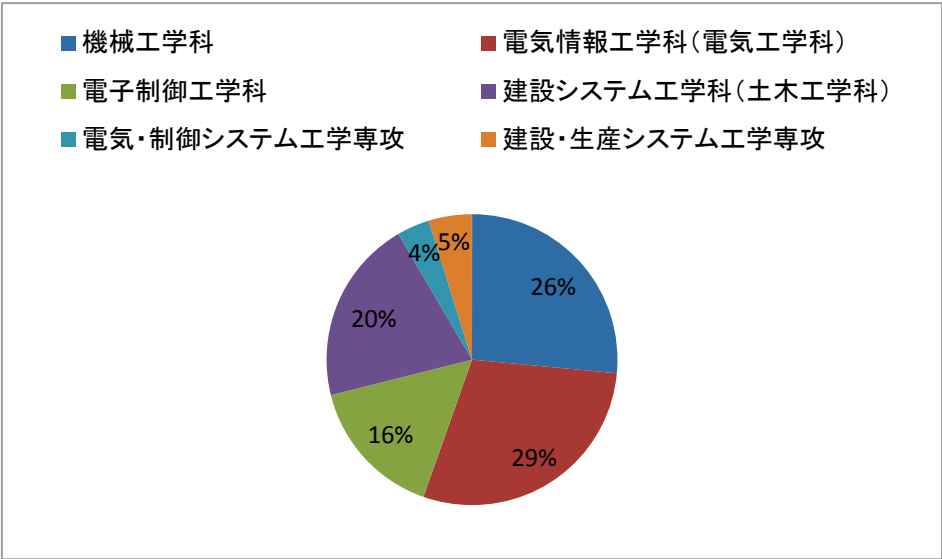
平成 2 4 年度「本科卒業生・専攻科修了者による教育評価アンケート」集計結果

1. 個人基礎データに関する質問

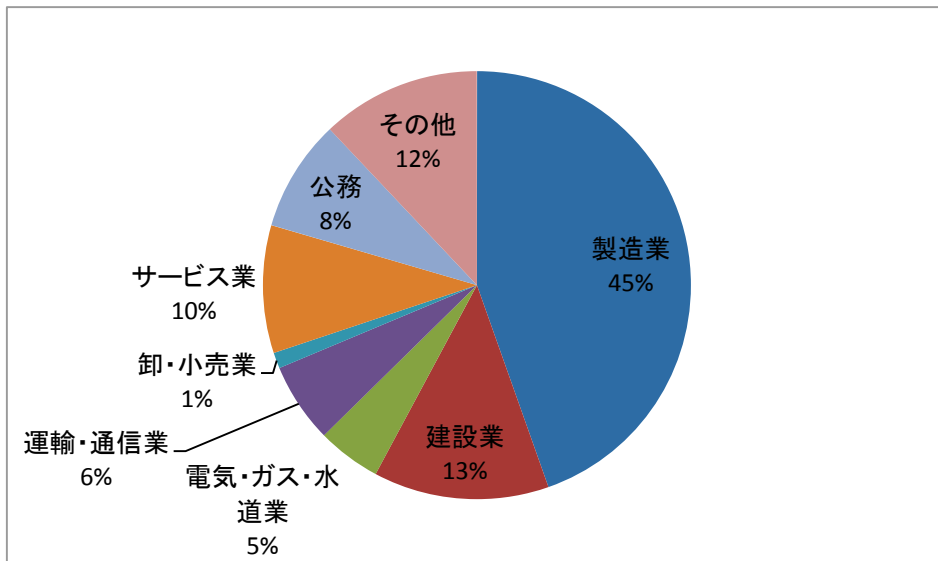
問 1. あなたの年齢を[]内に記入して下さい。

[33.9 歳] (平均)

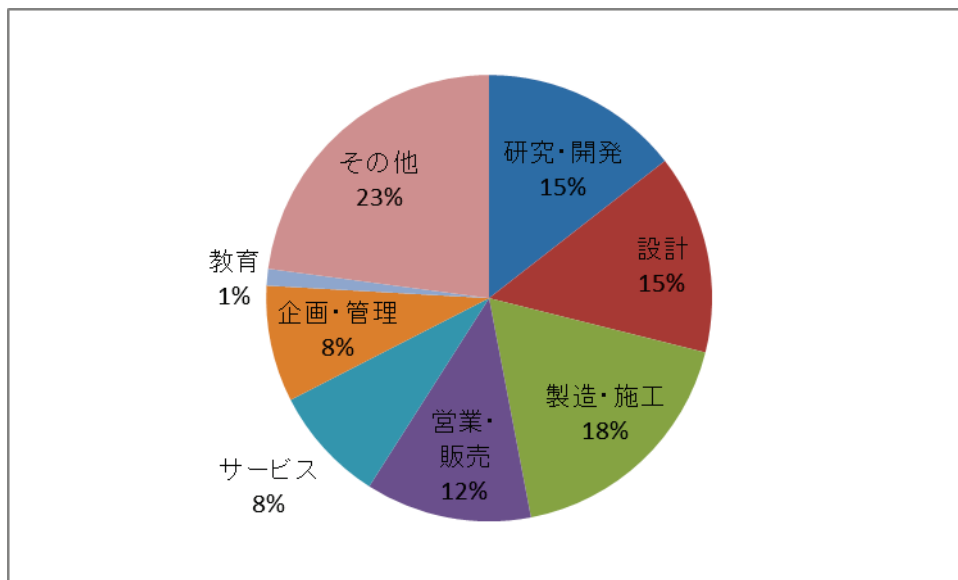
問 2. 出身学科を回答して下さい。



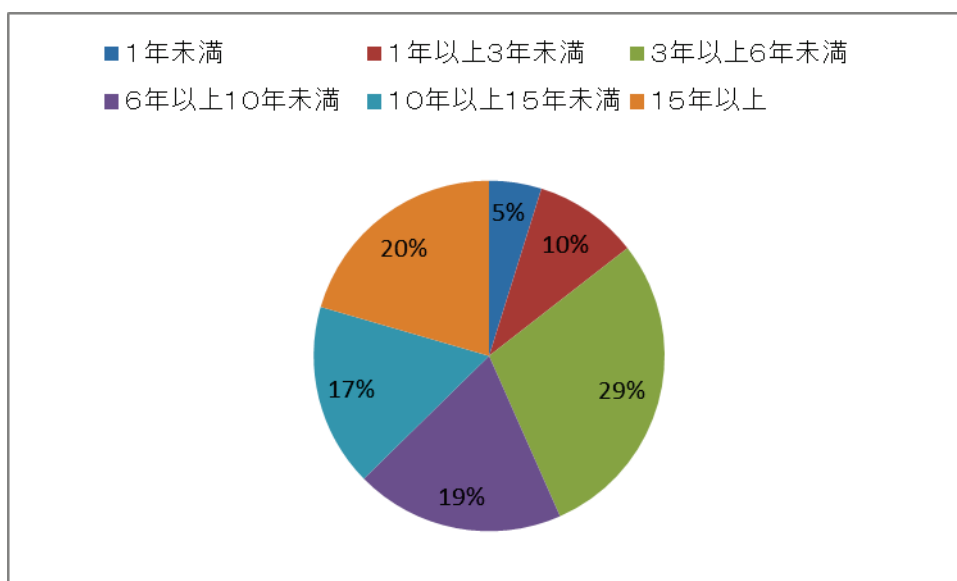
問3. あなたの現在の勤務先（自営も含む）の業種は何ですか？



問4. あなたの現在の職種は何ですか？



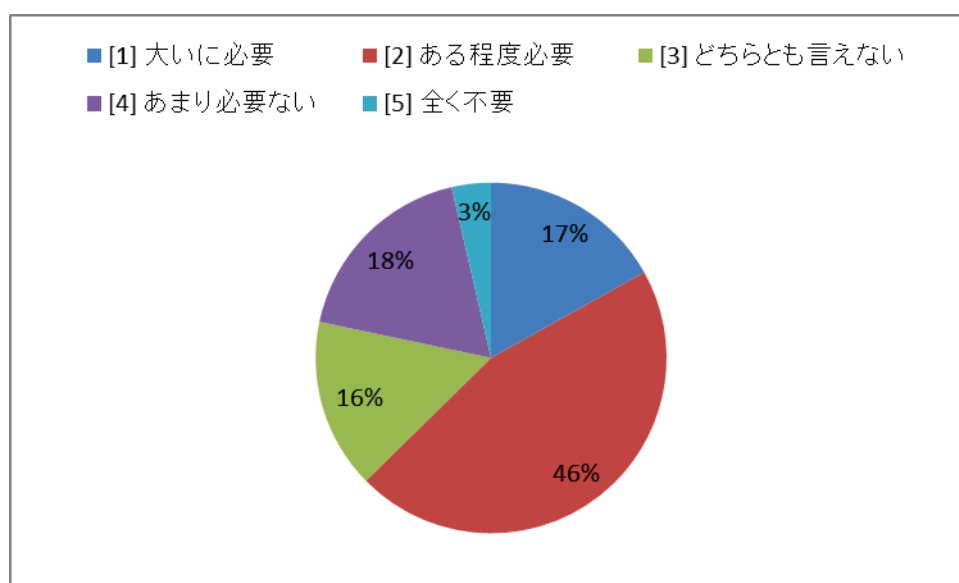
問5. あなたの現在の職種の経験年数を回答して下さい。



2. 業務に必要な知識、高専で学んだ知識に関する質問

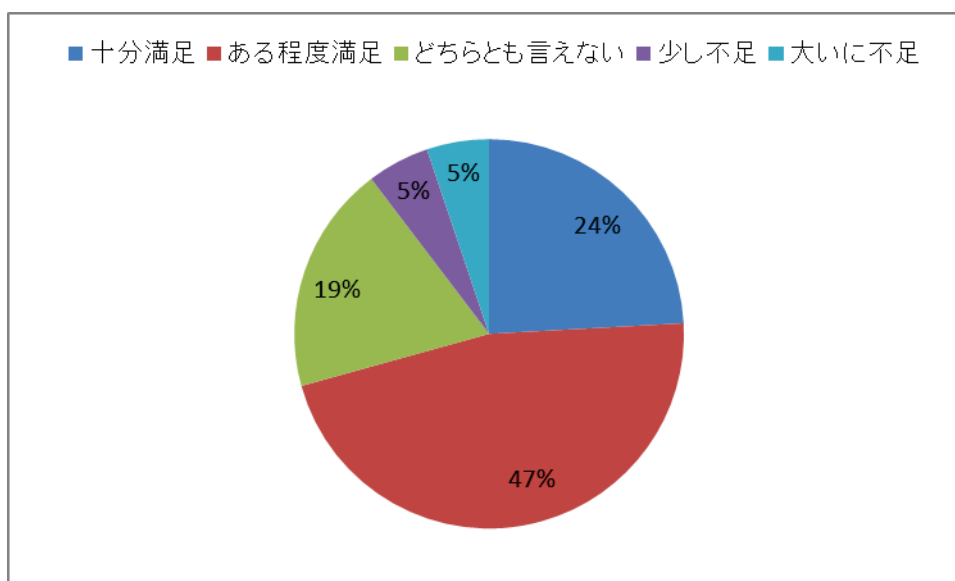
A. 「自然科学（数学、物理、化学など）に関する知識とそれを応用する能力」について、お尋ねします。

問6. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。



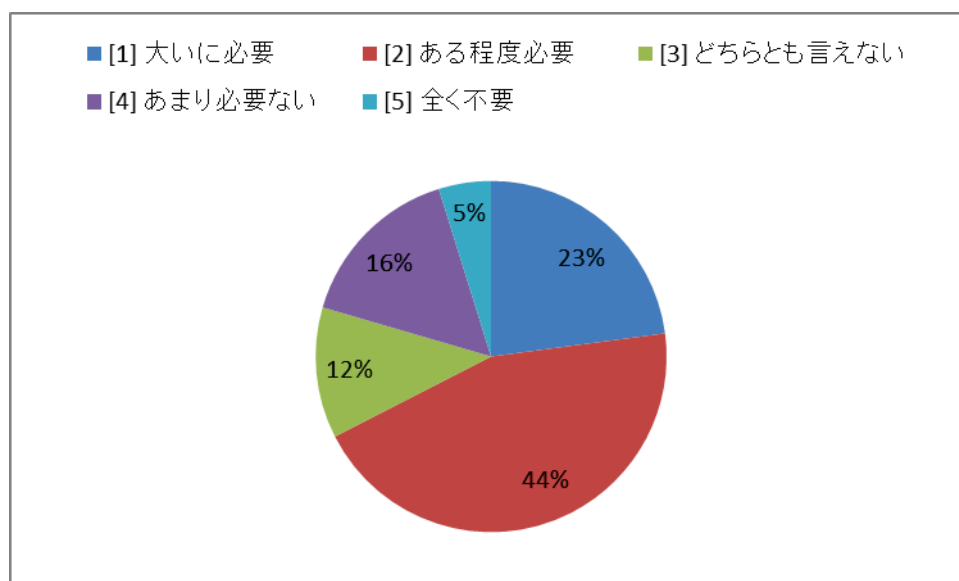
問7. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。

(問6で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。)

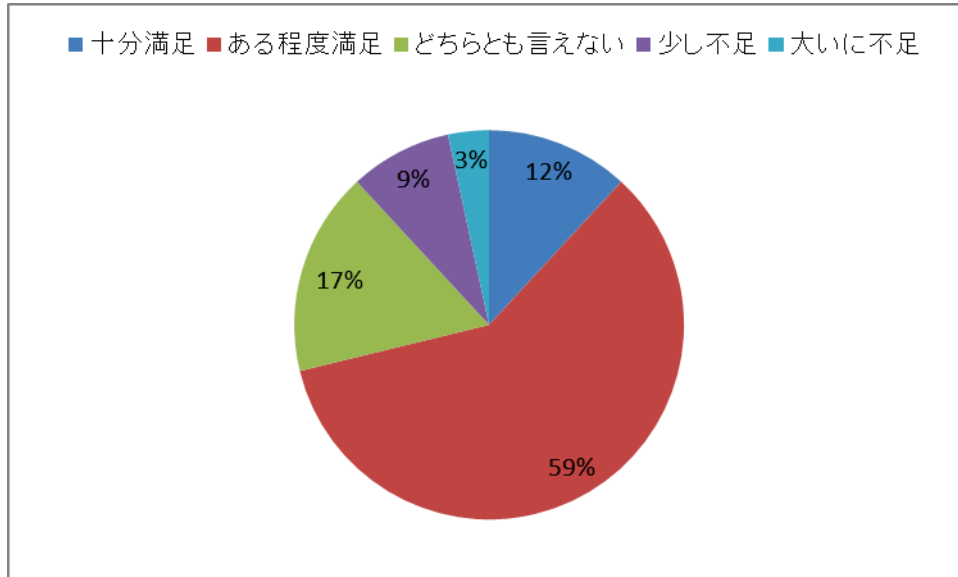


B. 「高専で学んだ専門分野に関する知識（講義系科目）とそれを応用する能力」について、お尋ねします。

問8. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。

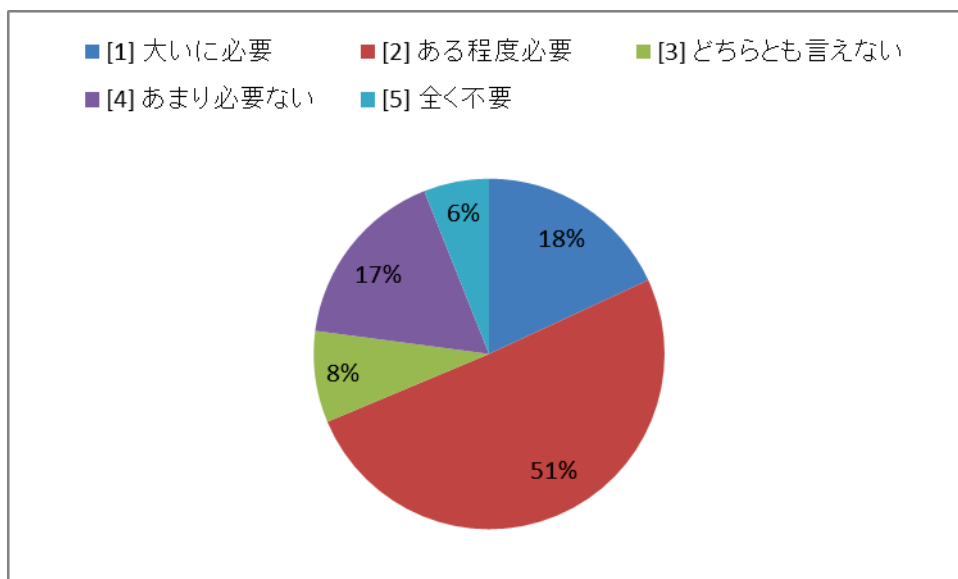


問9. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。
 (問8で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。)

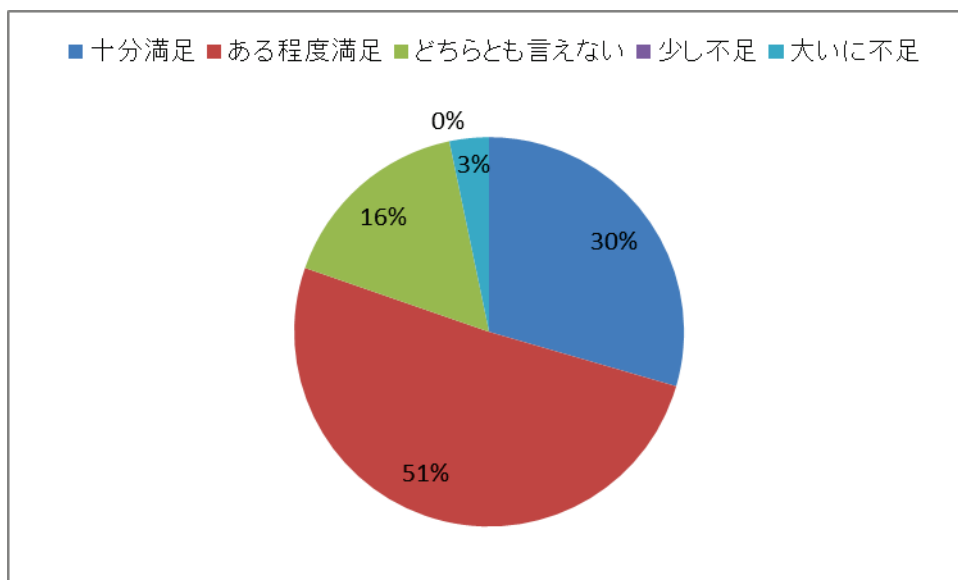


C. 「高専で学んだ専門分野に関する知識（実験・実習系科目）とそれを応用する能力」について、お尋ねします。

問10. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。

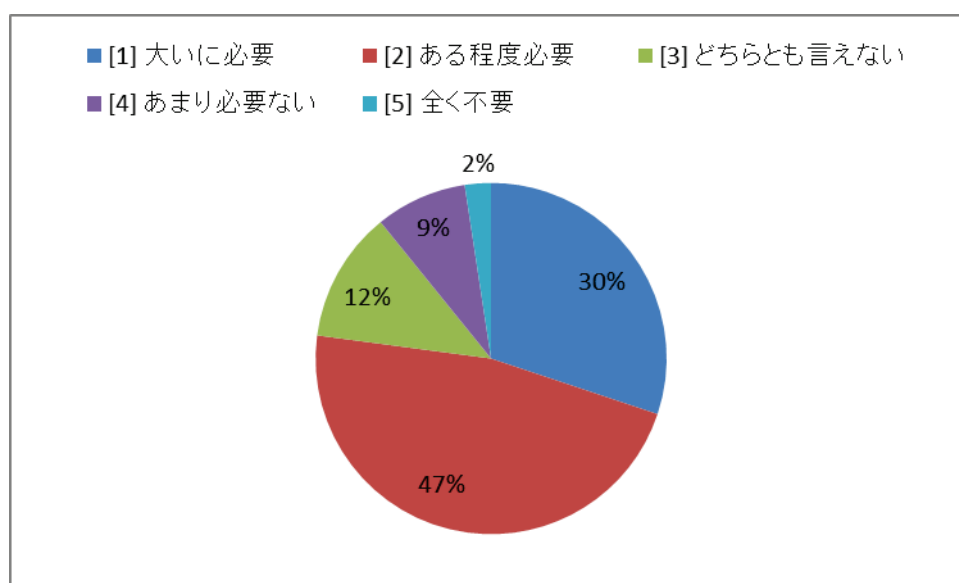


問 1 1. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。
(問 1 0 で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。)



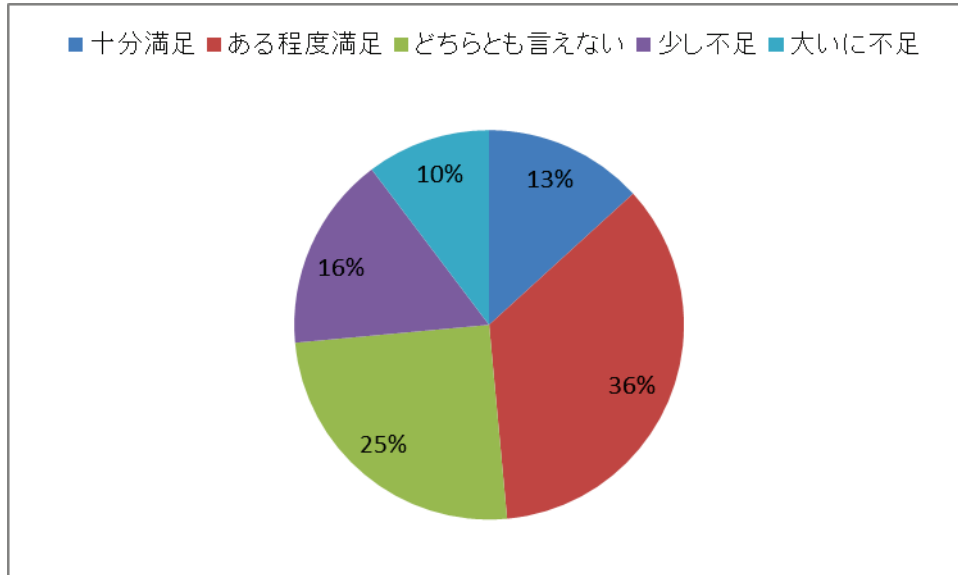
D. 「基本的な情報技術に関する知識とそれを応用する能力」について、お尋ねします。

問 1 2. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。



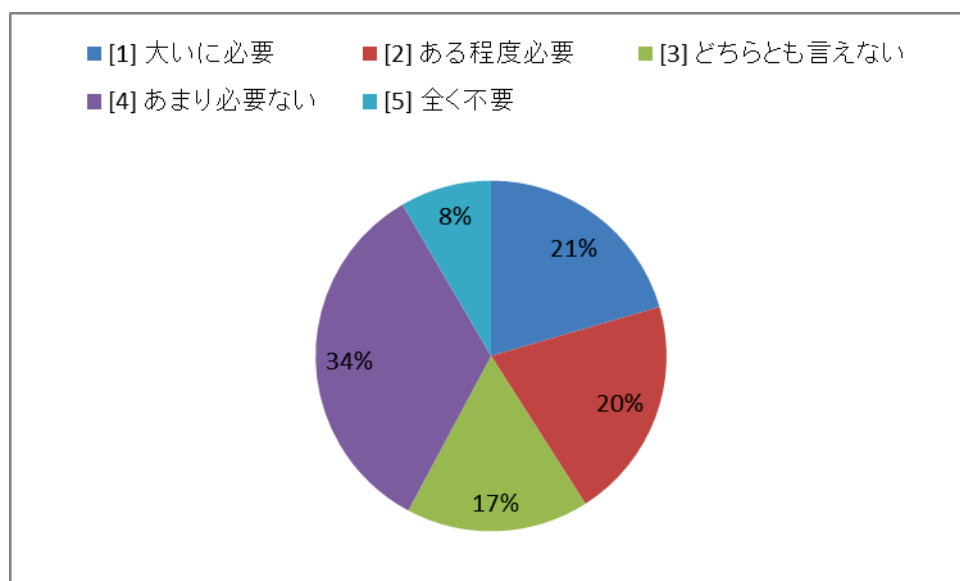
問 1 3. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。

(問 1 2 で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。)

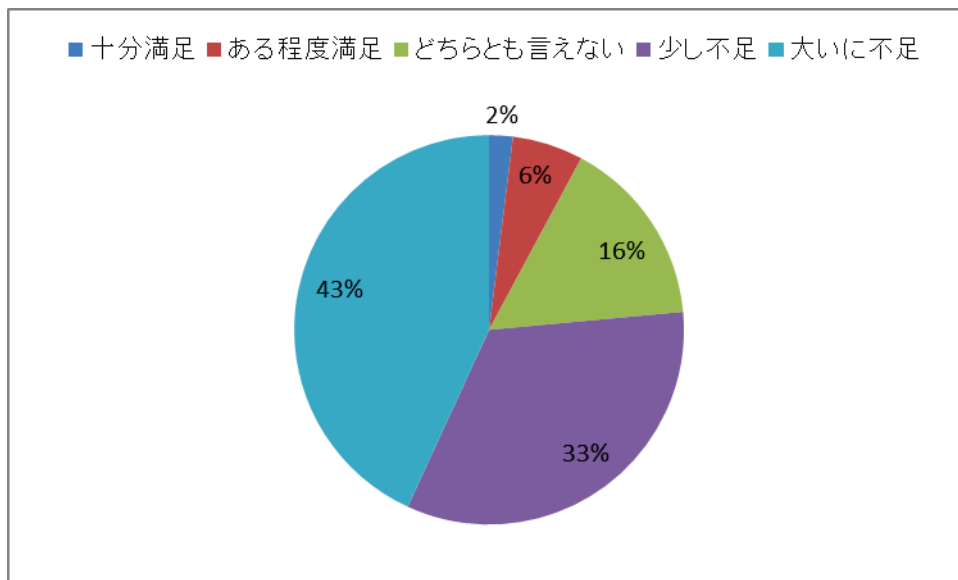


E. 「英語に関する知識と英語によるコミュニケーション能力」について、お尋ねします。

問 1 4. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。

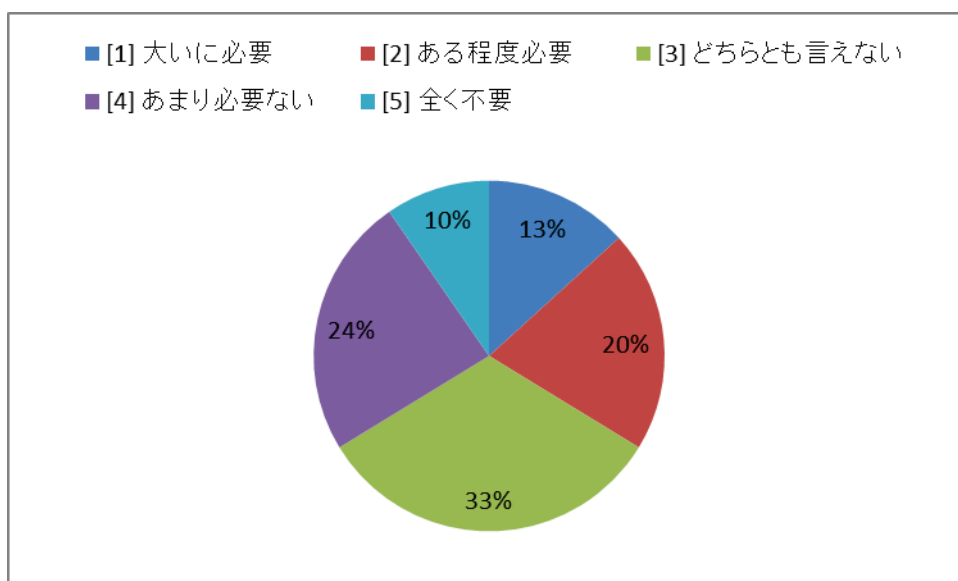


問15. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。
(問14で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。)

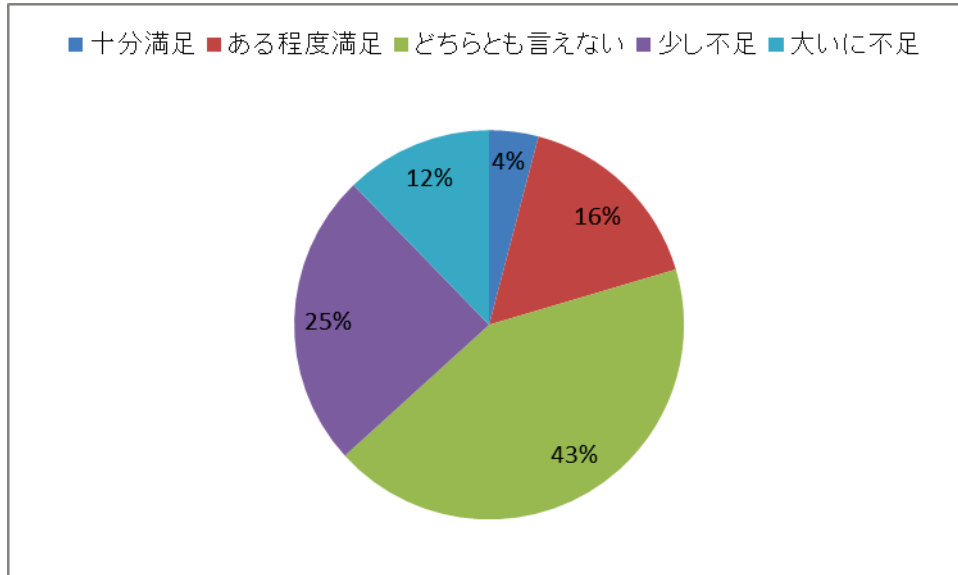


F. 「いわゆる一般教養科目（技術者倫理, 哲学, 法学, 経済学など）の知識とそれを応用する能力」について、お尋ねします。

問16. あなたの現在の業務では、これらが必要とされますか。

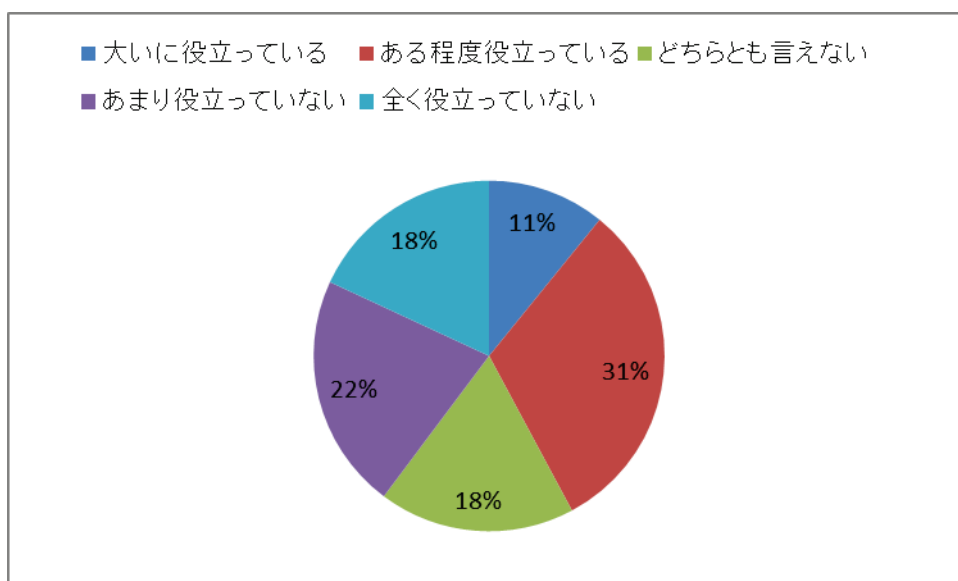


問17. 業務を遂行するうえで、高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。
(問16で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。)



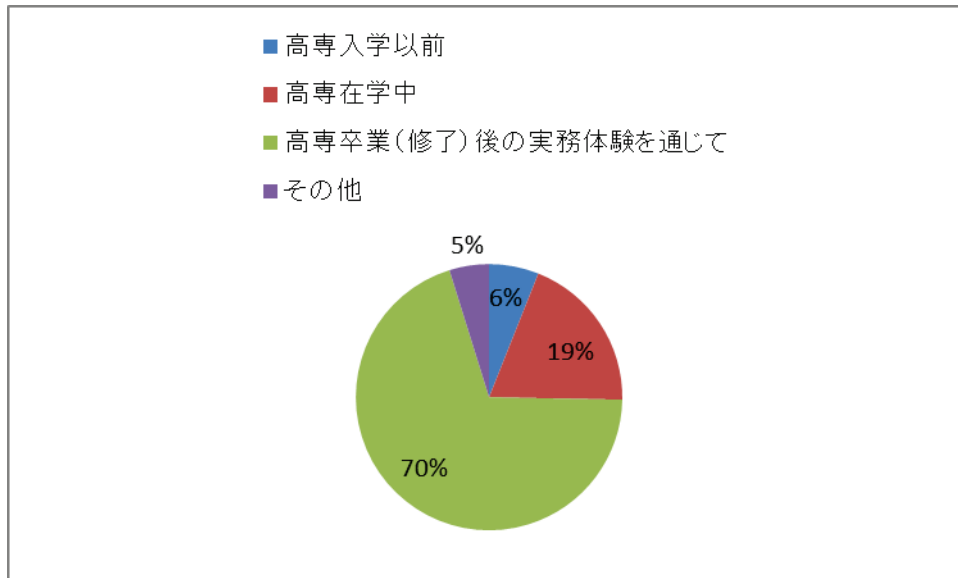
G. 「卒業研究」・「特別研究」についてお尋ねします。

問18. 5年生・専攻科生で実施した卒業研究・特別研究の経験は、あなたの職務を遂行する上で役立っていますか。



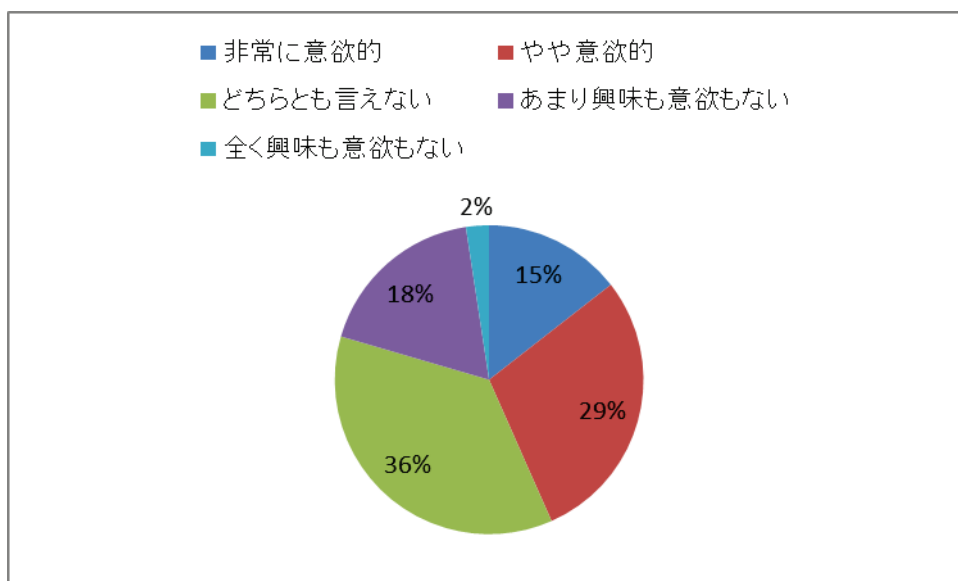
3. 技術者意識に関する質問

問19. 技術者として、「工学技術のもつ地球的、社会的影響力の重要性」を十分理解されていることとは思いますが、これを認識され始めたのはいつ頃ですか。

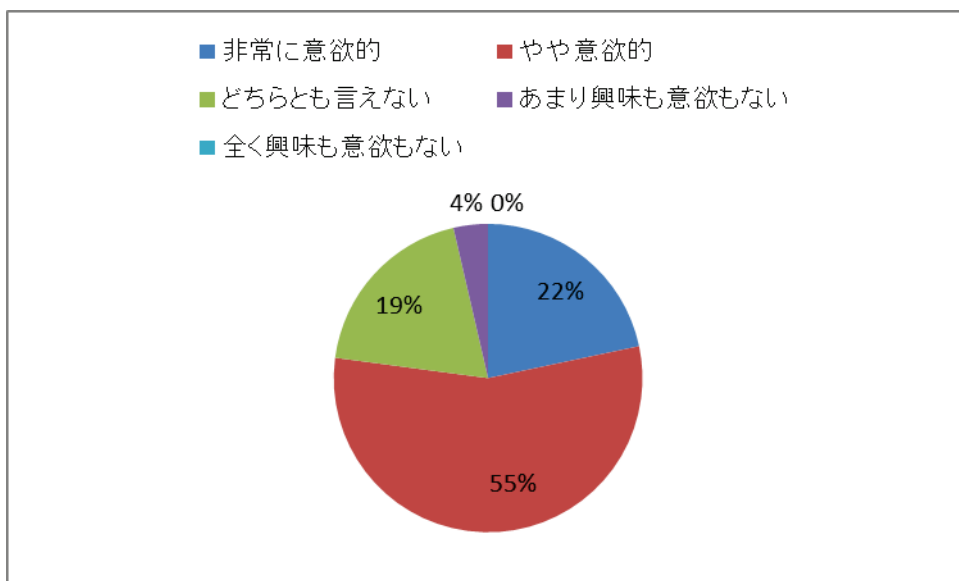


問20. 技術者として、「工学の発展に常に興味をもち、生涯学び続ける意欲」が大切であるとよく言われますが、ご自身をどのように評価されますか。

①本科・専攻科の卒業・修了時の評価



②現時点での評価

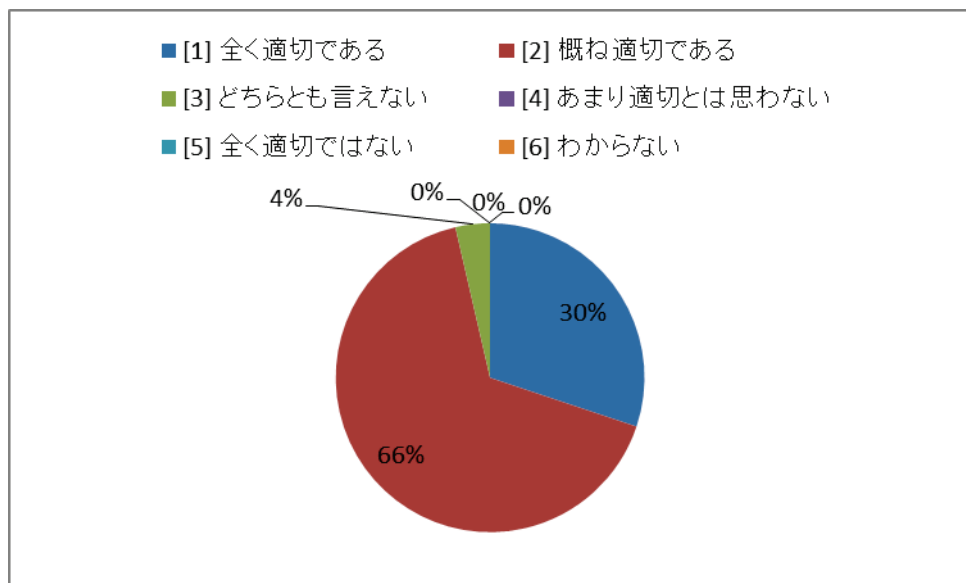


4. 学習・教育目標について

問2 1. 本校では、本科の学習・教育目標として以下を設定しています。

- A) 自然科学と工学の基礎を身につける
- B) 専門分野の基礎知識を修得し、技術の実践に応用できる
- C) 修得した知識を統合し、製品やシステムを考案できる
- D) 実験・実習・演習により現象の理解を深め、実践力を身につける
- E) 技術者に必要な人間性、国際性、協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける
- F) 技術が自然や社会に与える影響を理解し、技術者としての倫理観を身につける
- G) 課題の提案・報告などを適切にまとめ、発表できる
- H) コンピュータを技術の実践に活用できる

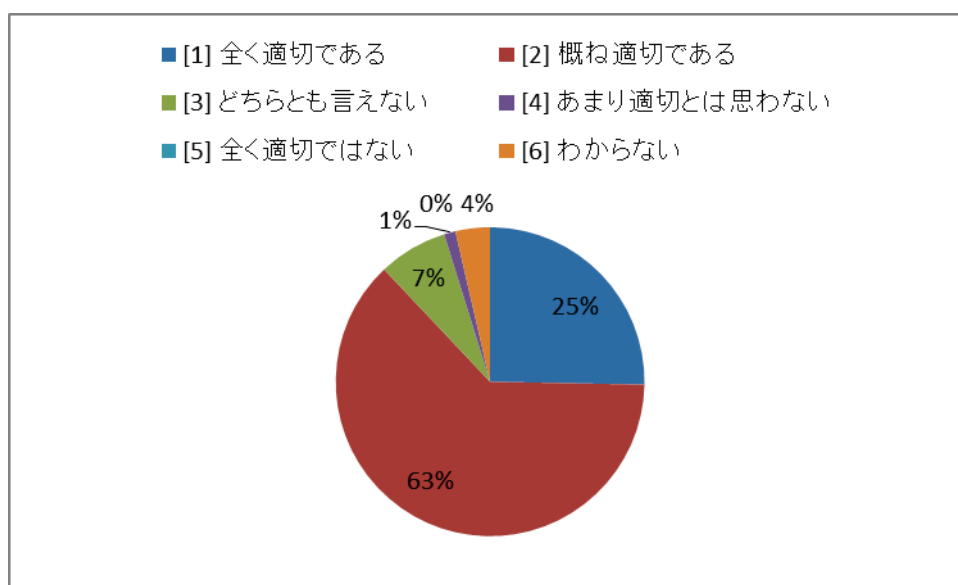
これらは適切と思われますか？



問2 2. 前問で[4]または[5]と回答された場合、その理由をお書きください。

問 2 3. 本校では、専攻科の学習・教育目標として以下を設定しています。

- A)自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる
 - B)専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる
 - C)修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する
 - D)実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる
 - E)豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける
 - F)技術が持つ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる
 - G)課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができる
 - H)コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる
- これらは適切と思われますか？



問 2 4. 前問で[4]または[5]と回答された場合、その理由をお書きください。

- 卒業後の実務にほとんど必要と感じるから

5. 「自立した技術者像」について

問 2 5. 本校では「育成しようとする自立した技術者像」を定めようとしています。「自立した技術者像」のイメージがありましたらお書きください。

○営業も行える設計・製造者であること

○自ら学び、こだわりを持って課題に取り組む姿勢があること

“自ら思い立ち、主体的に行動できる人”

私が高専生の頃は授業を“受身”で“こなす”ことが多かったのではないかと今では反省していますが、高専祭や卒業研究終盤では自分の役割がはっきりと認識できたことで、主体的に動けたと感じます。社会に出ると、自分は何がやりたいのか、主体的に行動できているのかを常に問われます。中学を卒業した後という若いときから、主体的に行動できる習慣(環境)があれば、学生は自ら伸びていくものだと感じます。

○技術を習得するまえに、社会や環境に貢献できる製品やサービスを実現するゴールを思い描き、そのゴールに向けて技術がどのように貢献できるか想像し、そのゴールを実現するために、他者と円滑なコミュニケーションが取れるような人物像。上記は、技術的知識や経験を蓄積する以前に最も身に付けておくべきスキルであり、これらが身に付き、且つ技術的知識や経験を蓄積した技術者が「自立した技術者像」であると考えます。

○常に疑問を持ち探究心のある人

○自ら課題、解決する手段を見出し、解決方法を論理的、且つ合理的に情報を必要とする人に報告ができる技術者

○課題・Issue を自ら発見し、それを解決する努力ができる。

○専門と認識する業種に関する深遠な知識体系、未体験の業種であっても自己の持てるモノを活かしていこうとする貪欲さ、それらで一定以上のラインを目指せる技能をもつ(探求する)者

○会社の方向性に自分の知識を合わせられるあるいは合わせる努力を常に続ける

○スティーブ・ジョブズ

○現在の社会情勢、身の回り(会社/教育現場)の状況を見据えて、問題提起、課題の抽出、課題の解決までを自ら積極的に考え行動する技術者が、自立した技術者像と考えます。

○年齢を問わず常に向上心を持ち勤務する会社や社会に貢献できる技術を吸収するとともに、これまでの経験を生かし次の時代を担う人材を育成する技術者

○向上心を持ち絶えず疑問を持つ。自分自身で創造する。

○自分で調べ、自分で考え、周りの意見を聞き、自分で納得し、自分で行動する。

○自分で考え問題解決できる技術者

○対課題力、対人力、対自己力を備える人物、また向上心を持ち実践し続ける人物。

○よく学び、よく考え、実践する

○私が高専に入学した当時からエンジニアに最も必要なものは「創造力」であると、つぶさに聞かされていたように記憶しています。確かに、様々なモノを創りだす力とそれを下支えする正確な理論はエンジニアにとって必須のものであると思います。しかし、昭和から平成に変わり数十年「いいモノさえ作れば必ず売れる」といった時代はとっくの昔に終

焉を迎えています。今の時代のエンジニアに必要な資質として「創造力」だけでなく、製品の最終購入者の何を望んでいるのかを敏感に感じ取れる「想像力」をあわせて考える必要があるのではないのでしょうか。Creativity と Imaginability のどちらに偏ることもなく、あたかも両輪のように使いこなせるエンジニアというのが、今、求められている姿だと思います。

○目的、解決の方法・手段、結果が自分で導き出せる。

○私は産業ロボットに携わる仕事をしており現在営業職ですが、会社に入社した段階では技術員としてでした。技術としての知識として、物理や数学に関してある程度知識がある方が、他の技術員よりも理解が早く仕事効率がよかったです。しかし、営業となると知識だけでなくコミュニケーション能力や資料作成能力、またはシステム全般を管理しなければならないので結局は多くの能力を必要とされます。昔ながらの職人気質な技術者も立派であると思いますが、グローバルな技術者となると多くの知識、経験を持っている者が必要とされると思います。社会に出てこれらを学ぶようになりましたが、学生時代に少しでも気づけるのでは将来大きな差がでてくると感じます。

○コスト、品質、納期という制限が常に付きまとっています。この制約条件の中で、最大のパフォーマンスを発揮する。

○勤続経験によって社会や地域に求められる技術者は異なる。キャリアパスなどを考慮すればよいと考えます。たとえば、勤続5年や10年までは精確な技術は必要ですが、要所では判断を上席に仰ぐ必要があります。勤続年数が長くなると技術だけでなく、管理能力を求められます。部下を受け持つと育成能力も問われます。

○ものごとの本質を正しく理解できる、また、なぜそうなのかを自分の言葉で正しく論理的に伝えられる技術者。生涯学ぶ姿勢を持つ技術者。

○自発的な論理追求を怠らない

○リスクを把握し、対処できる。十分な知識があり、根拠に基づいた説明ができる。関係者と信頼関係を築くことができる。

○英語力、新しいアイデアを出せる力、強い意志力を持ち、エネルギーである(エネルギーという点は成果を残されている方に共通する特徴だと思います)。

○自ら考え実践することができる

○既成の枠にとらわれない、新しい発想ができる。悩みにぶちあたっても解決する糸口を持っている(何を調べたら良いのかが分かる、頼れる仲間がいる、相談しあえる)。

○今の自分に必要な知識・情報を適切なツールを使いすばやく収集し、読解できる。また、優れたコミュニケーション能力により自分の得た知識を周囲に発信することが出来て、自分の所属する組織全体の技術を底上げできる。

○問題点を洗い出し、自ら考え実践し、効果の確認ができる。常にあきらめないこと！挑戦をつづけること！

○自ら発信し、回りの意見を聞きながら、責任を持ち最後まで実行する。

○前例のない課題等に自ら考え答えを出す。

○企画・立案から設計・施工・保守運用まで一元管理にて実施する体制

○失敗をおそれず、何事にもチャレンジする強い気持ちを持ち、人のしない事に挑戦する勇気を持った技術者。

4. 学科構成・学科名称等について

問 2 6. 本校には、本科に「機械工学科」「電気情報工学科」「電子制御工学科」「建設システム工学科」の 4 学科と、専攻科に「電気・制御システム工学専攻」「建設・生産システム工学専攻」の 2 専攻が設置されています。これからも社会から求められる実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成する高等教育機関として、引き続き教育の内容や質の向上に努めていきたいと考えています。つきましては、現在の学科構成・学科名称等につきましてご意見・ご要望等ございましたら以下にお書きください。

○名称はあまり変えないほうが良いと思います。

○機械・電気・情報・電子制御はかなり関連に密接した工学であるといえる。機械＋電気、さらに＋電子制御、さらに＋情報技術という発展をしていると思う。それぞれに特化した人材を育成することが目的ではなく、全てを薄く広くでも把握できる中で、特に強みとするものを学科として定義するのが良い。

○ソフトウェアに特化した学科が現在はあるのか分かりませんが、必要かと思えます。

○高専に入学を考える生徒や保護者が誤解しない名称にする必要がある。「建設システム工学科」という名称では土木分野と建築分野のどちらが主であるかを明確に理解できないため、変更が必要であると考えます。

○私の在学から卒業時までのわずかの間、ちょうどインターネットが普及しはじめ、情報処理技術が急速に高度化した時代と重なります。私自身は機械工学科の卒業のため、他の学科の詳細な学習内容までしりませんが、1 年生時に学習した情報処理技術が、卒業までに急速に陳腐化していったことにショックを覚えております。これからの時代も情報処理技術はどの工業分野でも間違いなく進化が続きます。各学科の垣根を越えて共通の学習単位として、最新の情報処理技術を学べる仕組みがあれば、きっと卒業後に役に立つと思います。

○中学在学中に学科を決めたのがなんとなくのイメージしかなかった為、将来のイメージがはっきりしていなかった。私は現在、原子力発電所において勤務しているが、概ね分野としては電気・計装・機械・建築に分けられており、私自身は計装分野で仕事をしているが、高専で教わった内容で関係するのが電気の知識少々となっている。計装分野に特化した学科があればよかったのと思ったことはある。

○昨今の IT 技術の進化を鑑みると、情報処理のみの専攻が必要と考えます。

○現在の学科構成・学科名称等についてはそのままでもよいが、カリキュラムについてはできるだけ幅広い知識を得られるよう組んでいただきたい。

○構成・名称等をむやみに変えるべきではない

○随分前から言われているとは思いますが、IT 業種の広がりはやはり見逃せないものですし、情報技術者の資格を取るための知識等を教示する部門があってもよいのでは

○最後の土木工学科の学生としては、土木工学が建設システムとなった事に少し寂しさを感じています。

○電気情報工学と電子制御工学の違いが、名称だけからはよくわからない。ただし、名称というよりも、その時代時代で学ぶ内容は異なってくるので、電気だ機械だ土木だと考えずに、柔軟に組み合わせて学べるシステムにしてはどうか。

○機械工学科⇒機械システム工学科

最近、メカ設計だけ出来てもダメで、最終的にはシステムエンジニアを目指すべきだと思います。そうすると、メカ設計者でも、電気・ソフトを含めたシステム全般を理解しておく必要があるため、システムを付けておいたほうがよいと思いました。

5. その他

舞鶴高専の教育等に対するご意見・ご要望等ございましたら、以下にお書きください。

○教育は押し付けでは成り得ない。学生自身の学びたいという欲望、興味をどのように持たせ、引き出すかによって、自主的に学んでいくものである。それをサポートする体制をしっかり持つようにして頂き、特に学生には広く視野を持たせる経験を与えることが肝要。工場見学、社会人(OB など)を招いての意見交換会、学会など、学生にいろいろな場所での学習機会・経験を与えて欲しいと思います。

○工業を中心とした製造業(ものづくり)は、今後益々厳しくなります。グローバルに活躍人材、新しいことに挑戦していく人材の育成をお願いします。

○在学中はとにかく、どこで使える知識か解らないまま勉強していた記憶がある。入学前にどういった分野で使える知識か解っていれば、学科も決めやすかったと思う。

○物理、数学をより充実させる

○外国語は読解ができればよいと感じる

○豊橋・長岡技術科学大学との連携 → 一貫したカリキュラムを考えて欲しい

○情報リテラシー・セキュリティポリシーの教育

○在学中に JABEE という言葉をよく聞いていたが、何かに役立ったということが全くない。

○私の個人的な考えなのでズレていれば恐縮ですが...高専という学校は過去に我が国が工業立国を目指したころ、不足するエンジニアを早急に育成するために専門機関として作られた仕組みであると認識しています。言葉は多少悪くなりますが、いち早く即戦力となる人材を社会に向けて出荷するための養成機関であったと。しかしながら時代も移り変わり、設立当初とは社会情勢も大きく変わる昨今、モノづくりの現場でいち早く使える人間が欲しい、という社会のニーズはとても希薄になっていると思います。高専の5年間一貫教育、若くに親元を離れ育む自立心、若い仲間と長く寝食を共にすることで磨かれる感性。これらについては個人的にとっても素晴らしいことと思いますし、私自身、とてもいい教育を受けたと常に舞鶴高専卒業生であることに誇りを持っています。旧態依然とすることなく、この特殊な教育環境を使い、今の時代のニーズに合わせて、素晴らしい若者を育てていただきたいと思います。本校をこれから巣立つまだ顔も見ぬ後輩たちと、社会の現場で手を取り合える日に期待をしつつ、私は社会で自身のビジネスに邁進してまいりたいと思います。

○教育という概念が先生方にまったく浸透していない。学びの喜びを伝える努力をいっていない。生徒の立場としては研究者の前に教育者たれ！！という思いが在学中からずっとあった。自主性の名の素にほったらかしの感じがかった。

○高専生は、大学生にない「人間力」をもっと磨くようにしてください。以前は、どこの客先に行っても「高専生にハズレはない」とコメント頂きましたが、最近そんな意見を余り聞かなくなりました…。社会に出て、大学(院)出身者と競争しようと思うと、もっと違う色を出す必要があると思っています。即戦力を育てても、数年で並べられます…。なので、センスや人間力はそう簡単に成熟しないと思いますので、そのあたりの力を伸ばしてあげてください。

○舞鶴に限らず高専全般について本来の存在目的はすでに終り、もはや高専卒程度の工学知識レベルはエマージング諸国でのレベルとなる。今後、情報ネットワーク分野など大学での習得よりも、より早く社会に出て実践で身に着けるほうが早く確実な分野に向けて下地の良い若手の育成を期待したい。インターネット・情報ネットワークの職種においては大卒でのスタートよりも高専卒の若いうちからのスタートのほうがアドバンテージが大きい。

○社会では最前線の場に送り込まれる機会が多いので、語学やコミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成が必要かと考えます。

○学生が主体的に行動できるような環境づくりに期待します。0 から目標を掲げて行動するというのは、全員が全員できるわけではないので、きっかけを与えてくれるようなイベント、活動を通して少しずつ学生が成長できればいいなと思います。昨今では高専から大学へ進学する割合が多くなっていますが、社会ではこの他の人とは違う経験をしてきた事実が大きな武器となります。(私がそうでした。)高専の社会的役割は日々変わってきているので、是非とも頑張っていたきたいと思います。

○卒業して10年以上経ち、在学中にお世話になった先生方が定年退官されたと同窓会誌で見るたびに寂しさを感じると共に先生方から学んだ事を生かしているのかなと自問しております。卒業してからも学校と関わりが持てるような取り組みがあればと思います。

○学ぶ技術が社会の中でこういった役割を果たすのかを認識できるようになるのが学習意欲の向上につながると思う。

○高専卒業後、大学及び大学院を経て、現在の職種に就いた。業務に役に立った知識は、高専で学んだ(大学でも復習したが…)ことで十分であった。特に、実習、実験での経験は非常に役立ち、応用力として身に付きました。これからも質の高い教育を実践をお願いします。

○業界や実務の話題を取り込んだ講義があれば良かった。

○基礎的な技術的知識や経験の取得はもちろんのこと、人間力(想像力、好奇心、協調性等)を身に着けるためにも、是非とも全寮制の制度は必要だと思います。自身が舞鶴高専を卒業し、最も価値あることだと感じたことは、1年から5年までを寮で過ごし、指導寮生なども務めさせていただき、そこで培った他者(上級生、下級生)とのコミュニケーションや集団で必要とされる協調性や集団に対しての発言力だと思っています。また、国内・海外企業へのインターンシップ制度なども推進し、国際社会で通用する人材育成を強化してほしいと願います。

○自明のことですが、就職した後の知識・技術を得るための母体づくりも重要ですが、PDCAサイクル、マンツーマンインターフェースについても教示していただければ(そこに引っかけた経験がありますので)。後は、色々な流れで会社の法務・経営企画に携わることもあろうかと思っておりますので、法学、経済学も油断なく修めていようご教示いただければ。

○基礎科目をおろそかにしない教育の継続をお願いします。

○ホームページのデザインがあまりよくないですね。いい学校なのにもったいないです。欧米の大学のサイトのようにシンプルでかつ知的さを感じさせるようなホームページを希望します。

○高専卒業生は、頭でっかちでなく、現場作業も嫌がらずにやる(それが当たり前だと思っている)ところがあると思います。大学生とはバイタリティが違うというところを見せてもらいたいです。今後の卒業生にも大いに期待をしています。

○専門知識は重要。でも「広く浅く」だとあまり益が無い。電気情報工学科は電気と情報に分けたほうがいいのでは？今のままではどっちの専門知識も不十分に思う。学科を増やせないなら片方だけにしてもいい。つまり「ウチは電気工学科です。情報を専攻したいなら他高専を受験してください」とする(逆でもいいけど)。ほんとはもっと狭く深くしてもいいと思うのですが・・・

○社会に出ると様々な公的資格を要求(会社又は立場から)されますので、在学中の一連の就学内容に資格取得を考慮頂ければと思います。

○一言で言うと「コミュニケーション能力」がないとこれから厳しいと思います。職人に生きる方は別ですが。OBとして応援しています。

○私がお世話になったのはもう20年以上も前です。当時、土木工学科にて測量実習、各種実験等で充実した専門教育を受けた記憶があります。現在建設業関係に従事し、十分に役立ち感謝しております。しかしながらご承知かと思いますが、社会においてはコンピューターを用いた技術が必要不可欠となっております。現在の教育内容を存じておりませんが、従来からの外業的教育を継承しつつ、情報処理関係(CAD 製図、測量処理等)を充実させると良いと考えます。

○意見・要望等は特にわかりませんが、自分自身が舞鶴高専で学んだことを述べさせていただきます。現在の仕事での具体的な技術・知識は、卒業後に実践によって身につけましたが、その下地となる発想や着眼点は、講義及び実習を通して学ばせて頂いたと感じています。また「3」の技術者としての意識の部分では、幼稚な私たちに対し、折に触れ繰り返し根気よく伝えて頂いたことが、今になって有り難く感じています。実社会での経験も豊富な先生方が多くおられ、学問はもちろんのこと、講義の合間や雑談の中で印象に残った言葉は、その後実際に社会にでて仕事を始めてから、度々ヒントとなり、支えとなっています。そして、これはほとんどの卒業生が口にするように思いますが、仕事を十分に進めて行く上で必要不可欠な協調性や交渉力は、在校中に随分と鍛えられたと思います。学生時代は余り勉強をしなかったのも、知識と技術を身につけるのに非常に恵まれた環境にいて、十分な時間もあったというのに、もったいないことをしたと、自覚の足りなかった自分を悔いています。

○開校時の理念、自由と責任 を忘れずに、いつまでも自由な校風のままであり続けてほしい。

○企業では考える力、実践する力、話す力が必要だと思います。そういった人材育成を希望します。

○機械工学科の卒業生ですが、現在の職務において高専のときに機械言語を学んでいればよかったと後悔しています。

○記憶が正しければ当時のカリキュラムには殆ど組み込まれていなかったと思います。この点に関してはどういった職種に就くかによっても大きく変わってくるので何ともいえません。ただ私的な意見ではありますが、高専卒業後すぐに就職するのであれば、各科だけの専門的な技術・知識だけを深めるのでは無く”広く浅く”色々なことを学習したほうが技術者として今後色々な可能性もつことが出来ると思います。ずーっと同じ職場、職種なんて方のほうが珍しいと思います。社会に出てから新しいことに0からチャレンジするのは非常にタフなことです。

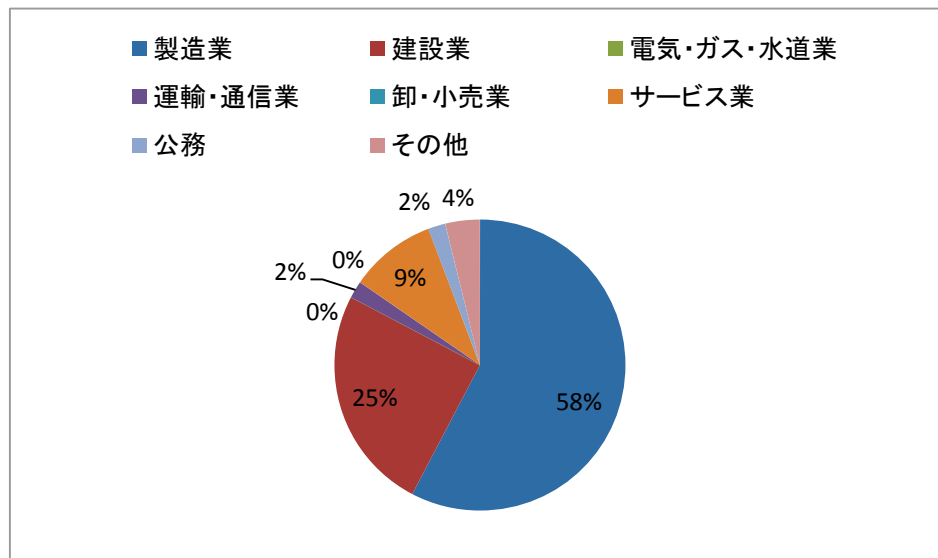
以 上

平成24年7月31日

平成24年度「企業による舞鶴工業高等専門学校の教育評価アンケート」集計結果

1. 基礎データに関する質問

問1. 貴社の業種をお答え下さい。

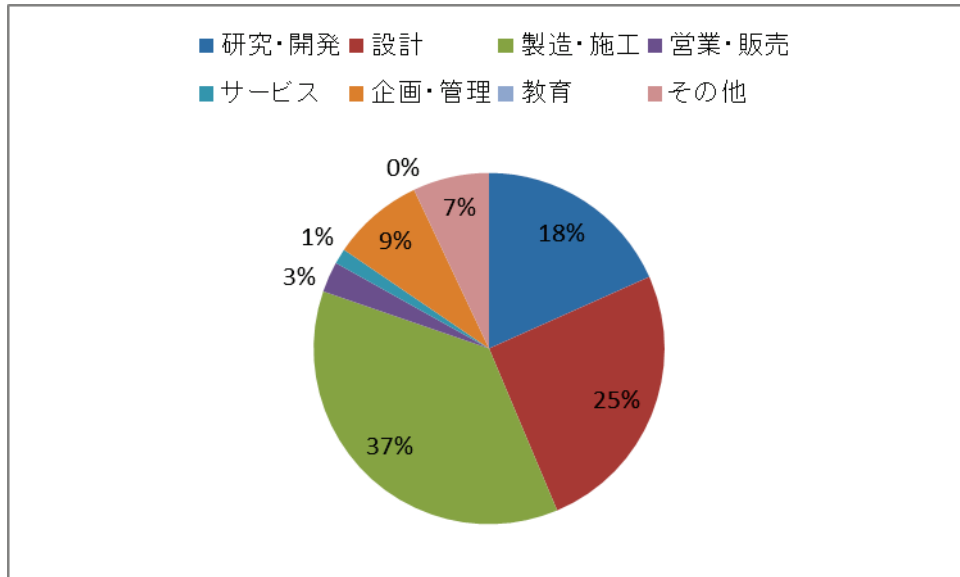


問2. 貴社に在籍の①社員数, ②高専卒の社員数, ③舞鶴高専本科卒業者数, ④舞鶴高専専攻科修了者数, ⑤最近5年間に入社した舞鶴高専本科卒業者数をお答え下さい(概数で結構です), ⑥最近5年間に入社した舞鶴高専専攻科修了者数をお答え下さい(概数で結構です)。

平均

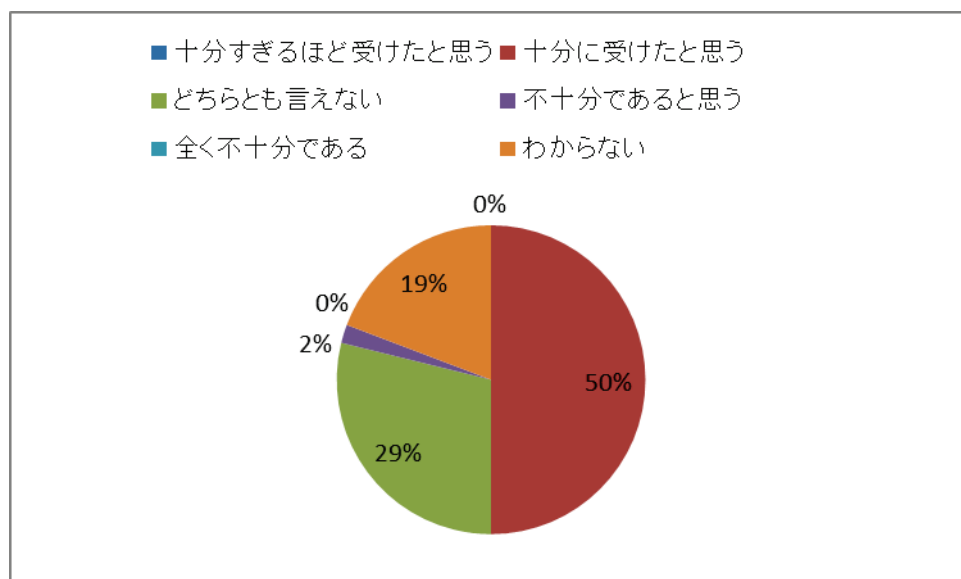
① 1934.9 人 ② 86.4 人 ③ 5.6 人 ④ 1.1 人
⑤ 1.7 人 ⑥ 0.5 人

問3. 最近5年間に入社した舞鶴高専本科卒業生・専攻科修了者の配属職種をお答え下さい(複数の卒業生がおり、配属職種が異なる場合には該当職種をすべてお答え下さい)。

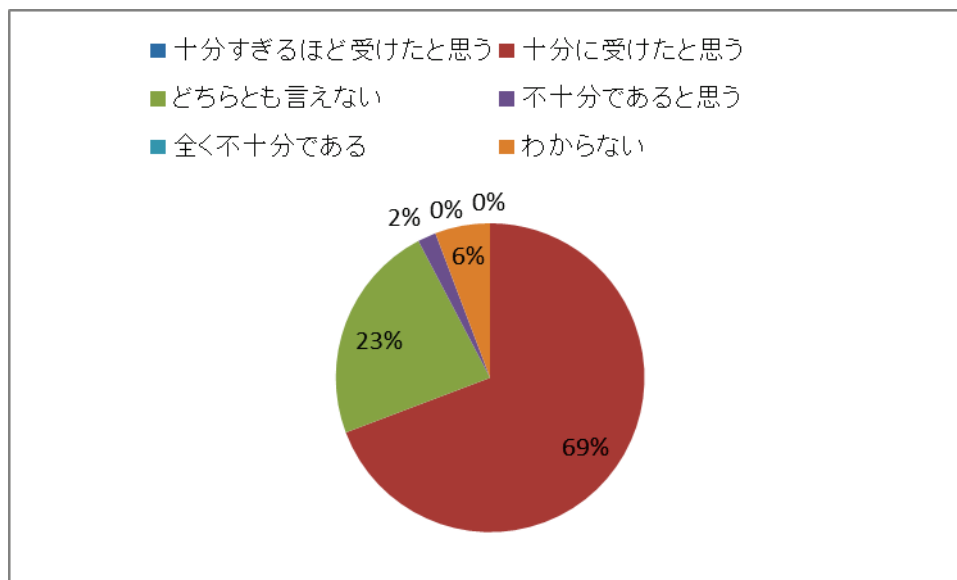


2. 最近5年間に入社した舞鶴高専本科卒業生・専攻科修了者(以下、評価対象者)が舞鶴高専で受けた教育の評価に関する質問

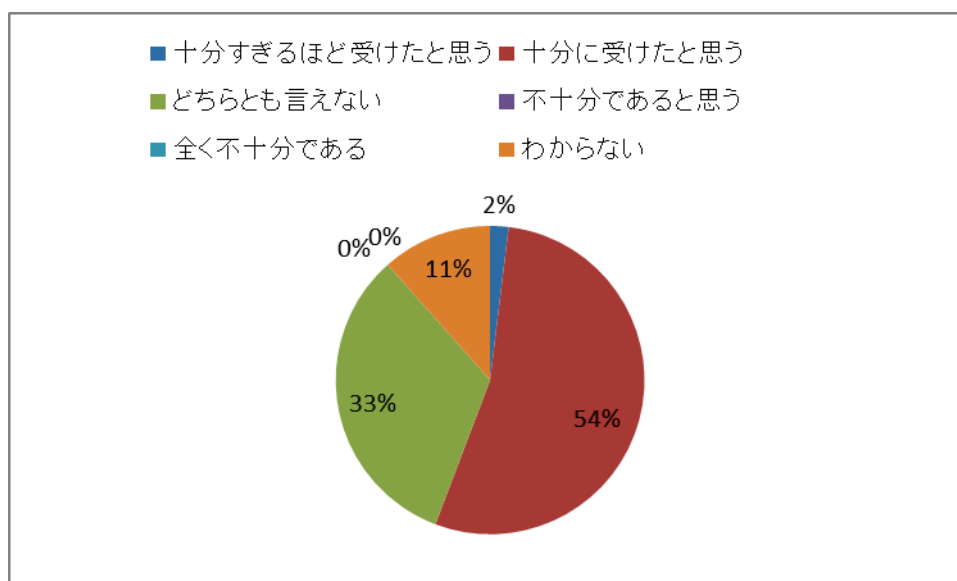
問4. 自然科学(数学, 物理, 化学など)の知識やそれを応用する能力に関して、評価対象者は舞鶴高専においてこれらの教育を十分に受けたと思われますか。



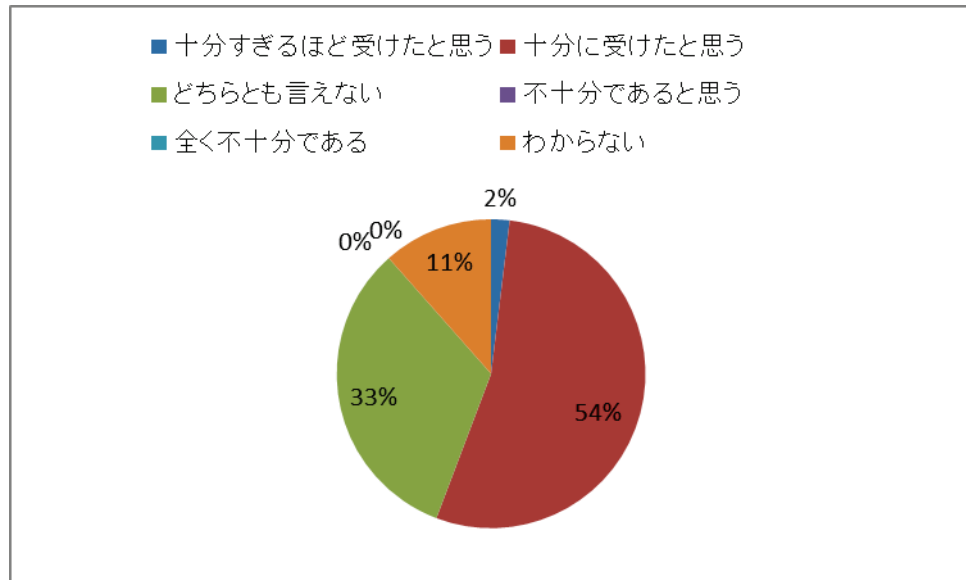
問5. 専門分野の知識（基礎学力）や、それを応用する能力に関して、評価対象者は舞鶴高専において、これら教育を十分に受けたと思われますか。



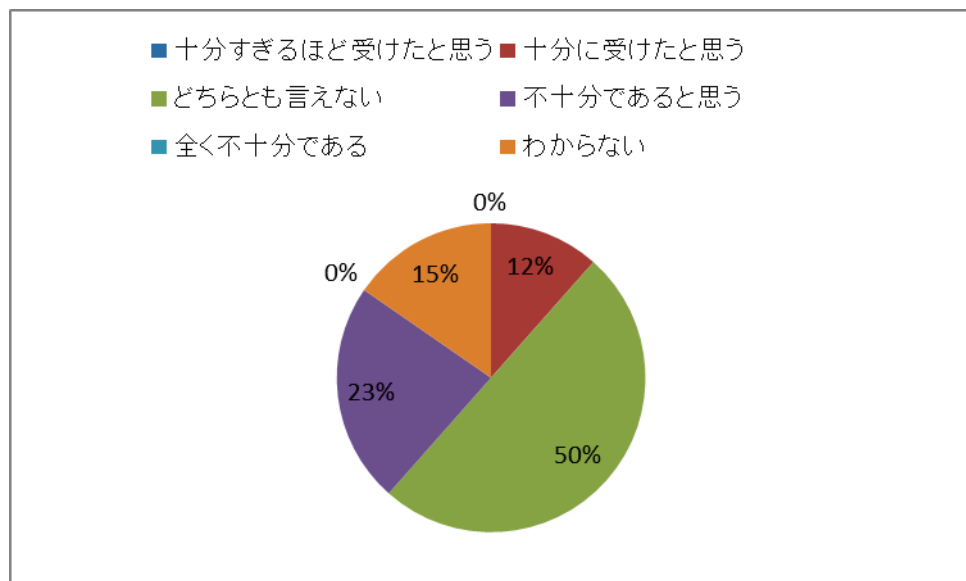
問6. 専門分野の知識（基礎技術）やそれを応用する能力に関して、評価対象者は舞鶴高専において、これらの教育を十分に受けたと思われますか。



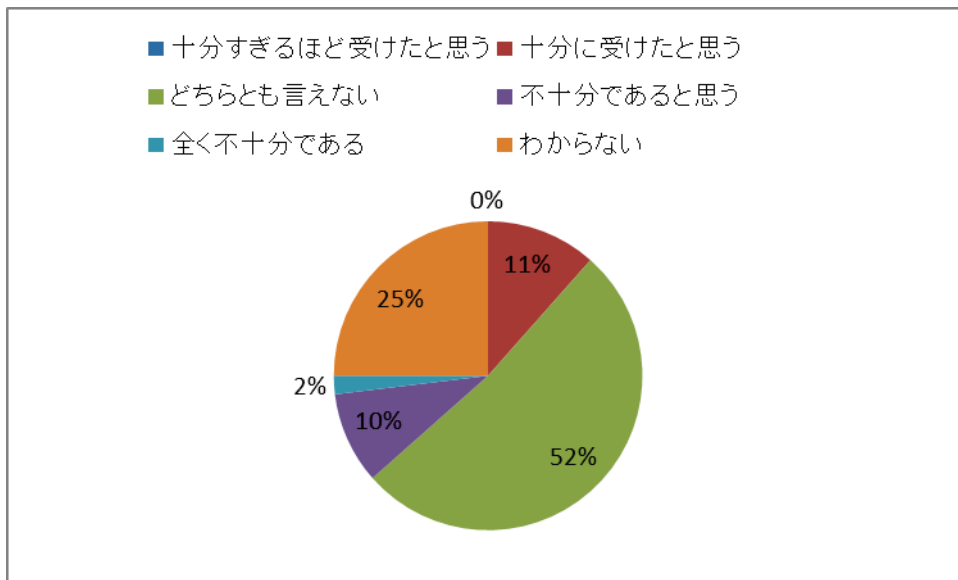
問7. 基本的な情報技術に関する知識やそれを応用する能力に関して、評価対象者は舞鶴高専において、これらの教育を十分に受けたと思われますか。



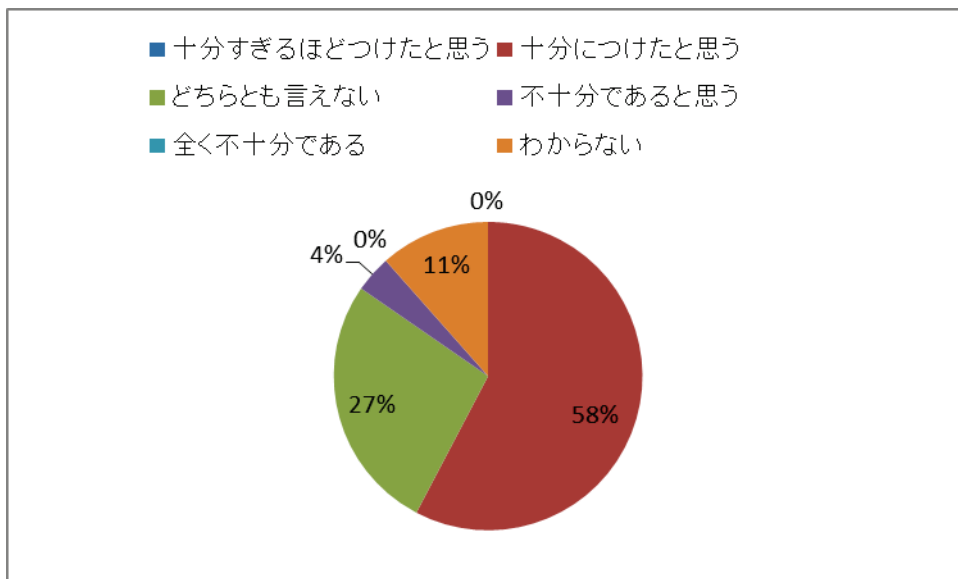
問8. 英語に関する知識や、英語によるコミュニケーション能力に関して、評価対象者は舞鶴高専において、これらの教育を十分に受けたと思われますか。



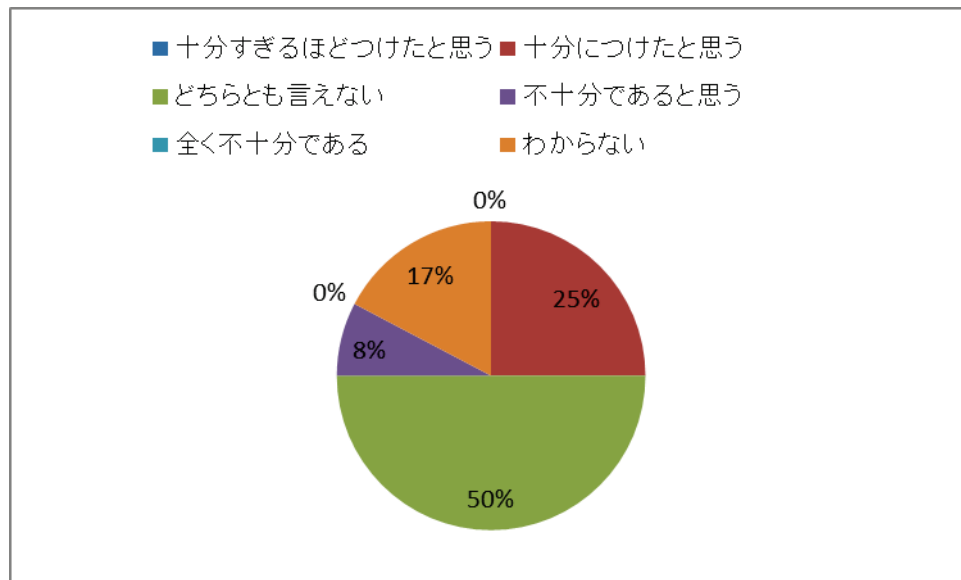
問9. 経済学，法学，倫理学などの知識や，それを応用する能力に関して，評価対象者は舞鶴高専において，これらの教育を十分に受けたと思われますか。



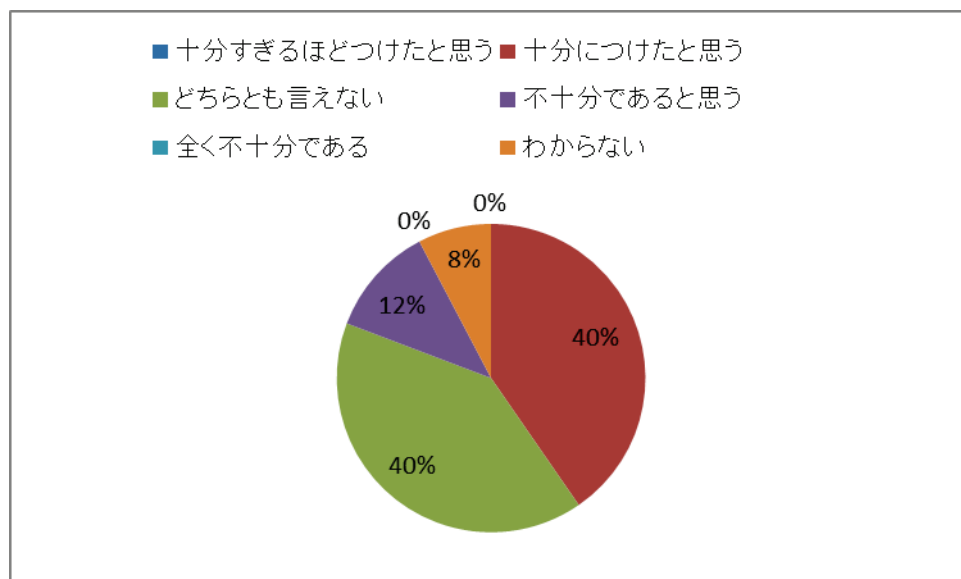
問10. 評価対象者は，舞鶴高専での卒業研究・特別研究などを通じて課題を探求する能力や，課題を解決する能力を十分に身につけたと思われますか。



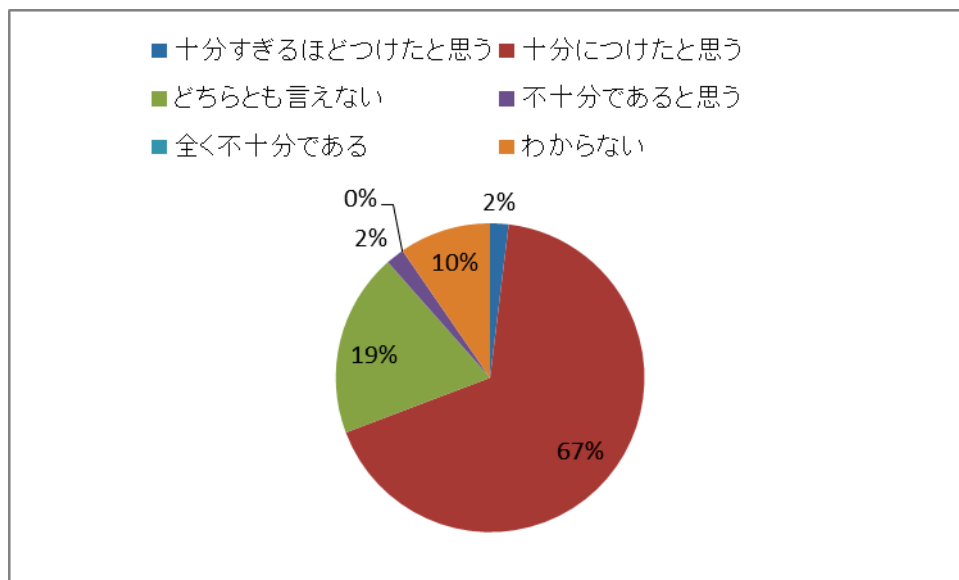
問 1 1. 評価対象者は、舞鶴高専において、グローバルな視点から多面的に物事を考える能力とその素養を身につけたと思われますか。



問 1 2. 評価対象者は、舞鶴高専において、論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を身につけたと思われますか。



問13. 評価対象者は、舞鶴高専において、自主的、継続的に学習できる能力を身につけたと思われますか。

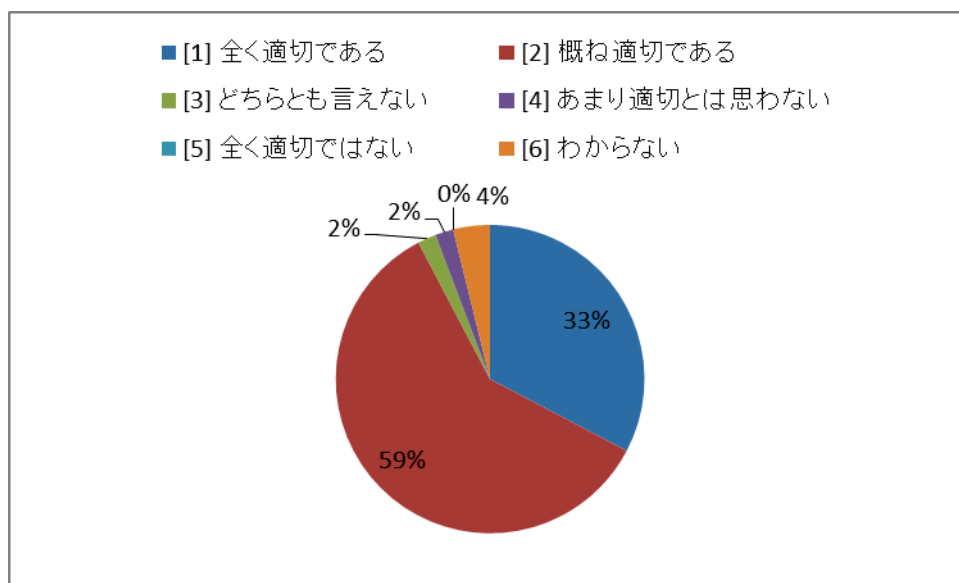


3. 学習・教育目標について

問14. 本科の学習・教育目標として以下を設定しています。

- A) 自然科学と工学の基礎を身につける
- B) 専門分野の基礎知識を修得し、技術の実践に応用できる
- C) 修得した知識を統合し、製品やシステムを考案できる
- D) 実験・実習・演習により現象の理解を深め、実践力を身につける
- E) 技術者に必要な人間性、国際性、協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける
- F) 技術が自然や社会に与える影響を理解し、技術者としての倫理観を身につける
- G) 課題の提案・報告などを適切にまとめ、発表できる
- H) コンピュータを技術の実践に活用できる

これらは適切と思われますか？



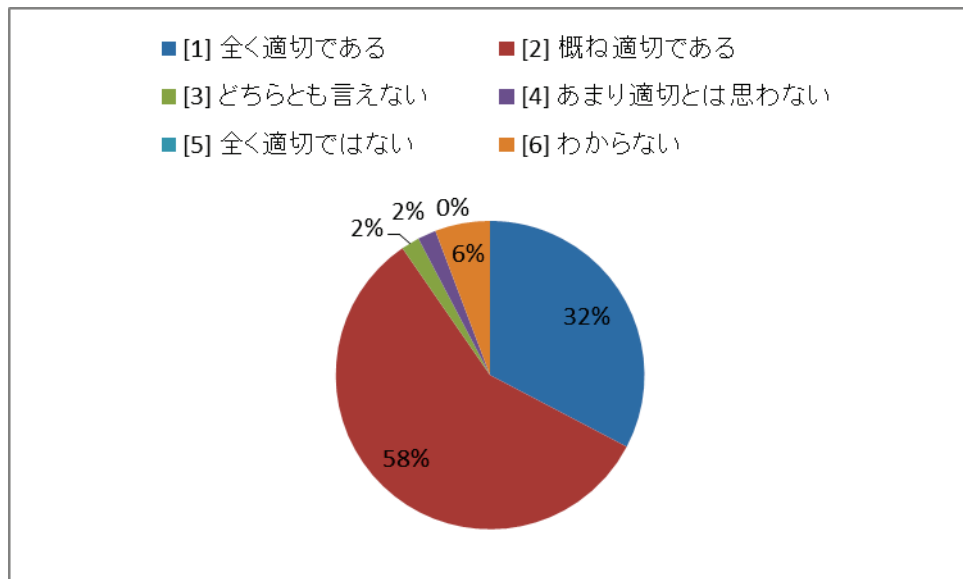
問15. 前問で[4]または[5]と回答された場合、その理由をお書きください。

○語学力(特に英語)の習得が足りない

問16. 専攻科の学習・教育目標として以下を設定しています。

- A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる
- B) 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる
- C) 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する
- D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる
- E) 豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける
- F) 技術が持つ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる
- G) 課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができる
- H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる

これらは適切と思われますか？



問17. 前問で[4]または[5]と回答された場合、その理由をお書きください。

○語学力(特に英語)の習得が足りない

4. 求めておられる「自立した技術者像」について

問18. 本校では「育成しようとする自立した技術者像」を定めようとしています。求めておられる「自立した技術者像」のイメージがありましたらお書きください。

○弊社では「人間力」「現場力」を社員に求めています。

《人間力》

礼儀正しい、感謝の気持ち、整理整頓&清潔、謙虚な気持ち、チャレンジする

《現場力》

緊急対応力、労務差配力、改善提案力、意思疎通力、センサー力、共同・段取力

○常に一步進んだ品質・技術を目指し、能動的に技術力向上に取り組み、それを後の世代に継承していく技術者。

○豊富な経験と現場力を有して顧客から信頼され、責任感のあるリーダーとして自己研鑽により能力を高めていける能動的な人。※孤立ではない。

○弊社では生産技術者としての活躍を期待している。『顕在化している技術課題を、自らが解決するだけでなく、潜在化している技術課題を、自らが設定し、解決に導く。』そんな技術者であって欲しい。

○担当分野だけでなく、多面的に物事を判断できる

○「担当工事における知識・技術の取得を基礎」として「コミュニケーション」が取れ、「提案力」を身に着けることを主眼としている。

○問題に対し指示を待つのではなく、自らの意思で粘り強く取り組み、最後まであきらめない技術者

○工学の基礎とそれを応用する力、また教養を身につけ、どのような職務についたとしても、その業務に必要とされる技能を短期に習得することができる。社内外において、円滑な人間関係を築くことができる。困難に直面した時にも、的確に問題解決策を見いだすことができる。

○何事にもチャレンジングで失敗しても、くじけない強固な精神を持っている技術者

○まずは疑問を持つ力を持った技術者であり、探究心と論理的考察とともに技術課題に取り組むような技術者を求めています。

○自らの専門としている分野以外のことでも何にでも興味を持ち(好奇心が旺盛)、自ら考え、行動し、明るく周りを巻き込むことができる人物

○仕事に対して自発的に取り組み完結に向け行動できる人物

○技術者として求められる知識・技能のみならず、コミュニケーション能力の高い技術者であり、何にでも興味を持つ、探究心の強い技術者を求めています。

○貴校が掲げられている学習・基本目標の内容を兼ね備えておられる技術者であれば十分社会に通用する技術者と考えます。あとは、色々な分野の方との接触もあることから、協調性があることが重要と考えます。

○自ら課題を発見しようとする姿勢と能力。「やってみます」という態度。固定観念にとらわれない柔軟な発想。

○疑問や興味に対する探究心をもち、人をうまく巻き込む能力を発揮できる人材

○何事においても受動的ではなく、能動的に考え・取り組むことができる。また、どんな困難な状況であっても、やり遂げる責任感と精神を合わせ持つ人材。

○守:最初は既存の技術を吸収できる能力 破:既存の技術を脱却できる能力 離:新しい物を作り出す能力
それぞれ10年スパンで進化して欲しい。

○幅広い知識・技術を保持すると共に、特定分野の専門性を有するような技術者。(いわゆる「T型」技術者)

○企業や組織が目指している技術に対して、自身で課題や問題点を洗い出し、自己成長ができる方。お客様の要望を汲み取り、臨機応変に対応できる方。

○新しいモノを生み出す力のある人。助け合うことのできる人。責任感と使命感を持てる人。努力を惜しまない人。

○明るく元気で、何事にも根気よく取り組む姿勢のある人。社交的・協動的でコミュニケーションの取れる人、リーダーシップを取れる人。ものづくりが好きで、製品に対する好奇心・探究心のある人。英語に対して苦手意識が強くない人。

○常に疑問・興味の意識を強く持ち、自ら進んで勉学に励む姿勢のある人物を求めています。特に、興味は持つが、途中で投げ出してしまう人物では困る。即ち、興味以上に、疑問を強く持ち、前向きに且つ、明るさを兼ね備えた人物は、自立した技術者になるのでは。また、企業側の求める人物では、同じ失敗を繰り返されれば困るが、失敗を恐れず、特に失敗を素直に認め、速報告できる人物。最後には、各方面の人の教を素直に聞くことができ、明るい人物。

○高い当事者意識と熱意をもって仕事に取り組む。広い視野とスピード感をもって仕事に取り組む。

○高い志と独自の視点、さらには強烈な目標達成意欲を持ち、現場・顧客視点で高い価値を提供し続けることができる人材

5. 学科構成・学科名称等について

問19. 本校には、本科に「機械工学科」「電気情報工学科」「電子制御工学科」「建設システム工学科」の4学科と、専攻科に「電気・制御システム工学専攻」「建設・生産システム工学専攻」の2専攻が設置されています。これからも社会から求められる実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成する高等教育機関として、引き続き教育の内容や質の向上に努めていきたいと考えています。つきましては、現在の学科構成・学科名称等につきましてご意見・ご要望等ございましたら以下にお書きください。

- 化学系・材料系の学科があると、教育の幅がより広がると思います。
- 高専、大学を含め学科名から「土木」の文字が消えつつあることは寂しいことと感じています。
- 電気情報工と電子制御工の各学科において、ハード面とソフト面のすみわけを望みます。

6. その他

舞鶴高専の教育等に対するご意見・ご要望等ございましたら、以下にお書きください。

- 対象者1名は、平成24年4月入社の新社員です。10月1日まで研修中のため、御校教育の効果の確認は、現時点では不可能です。
- 御校の生徒だけに限ったことではございませんが、近年の新卒者は、こちらからの問い掛けや、話し掛けたことに返事等ができない方が多いです。学科や科目のスキルアップも結構ですが、学生達が将来社会に出られた時の社会的ルールの教育も必要ではないでしょうか。
- 学校での勉強は、社会ですぐに役に立ち、学校での勉強がよく出来たから社会での良い人材とは限らないと考えます。人に好かれ、常に素直で前向きな人物を専門教育を通じ育てていただければと考えます。学校では、当然専門的な勉強をするでしょうが、社会では、壁や、疑問等を、どの切り口から勉強し、解決するかが必要で、「勉強の仕方」を習得した人物こそ成長すると考えます。併せて、コミュニケーションが自然ととれる人物を育てていただければと思います。社会に出てからが勝負で、出来る人物(技術者)は社会に出てから作られていくと考えます。
- ①英語教育の拡充 : 目標を設定し、資格取得を目指す(TOEIC等)
②論理的な思考能力及び、発表能力 : バックデータに基づいたロジカルな話し方
以上2点の教育拡充のご検討をお願いします。

○貴校卒業生が本年度(平成24年4月1日入社)初めて入社され非常に期待しているところです。技術者としての基本並びに人間性として非常に高いものを兼ね備えており、貴校での学生生活の中で築かれてきたものと思います。また、貴校来春卒業予定者の採用内定も出ており、引き続き期待しております。

○何事にもおいても前向きに積極的に取り組み、投げ出さず、やり遂げる事の出来る人間を育成して下さい。

○在学中に、公的資格を取得するよう推奨する指導があると良かった(本人談)。会社においては、資格を有することが、本人の処遇 UPにつながる。同期入社ของบริษัท内専門学校卒のメンバー(在学中に資格取得実績アリ)に比べ、ハンデを感じる部分があると思う。

○今後とも宜しくお願いいたします。

○舞鶴高専に対してということでは特にありません。一般論としての私見ですが技術の幅と深さこのどちらに進むかは本人の資質だと考えますがどちらにでも進みうる骨格を学べたら学生は幸せだと考えます。

○弊社へ入社いただいた貴校卒業生は、会社の期待に十分応えられる資質と姿勢を示してくれており、頼もしく感じております。

○専門的な知識・資格等は入社してからでも十分に習得可能である。一番大事な事は元気・やる気・根気だと思ふ。

○問4～問13の設問に関しては当然ながら個人差があると考えています。また、身につけた能力が貴校における教育によるものか否か、判断が難しいところもあるかと考えます。しかしながら、貴校の卒業生の能力については一定程度高い評価をしておりますので、付言しておきたいと思ひます。また、京都府北部に立地する数少ない高等教育機関である貴校には、人材輩出という点において大いに期待しておりますので、引き続き教育内容の充実にご尽力いただくようお願いいたします。

以 上